

豊岡市史年表（江戸時代末まで）

西 暦	日本年代	記 事
BC5～ 6千年		このころ、辻遺跡出土の押型文土器がつけられる（豊岡市内では最古の遺物）。
千数百年		豊岡盆地周辺に住む人びとが遺跡をのこす（辻遺跡・宮井遺跡・中谷貝塚）。
200ころ		米作りの文化、豊岡にも定着する（弥生時代前期の土器＝駄坂川原遺跡）。
27	垂仁 3	3月、新羅王子、天日槍帰来する。その将来した物を但馬国に収めて神宝とする（日本書紀）。
7	垂仁 23	暁の皇子・菴津別王、鶴を見て声をはじめて発す。天湯河板拳（久々比神社の祭神）、鶴をとらえて垂仁天皇に献上する（日本書紀）。
AD100ころ		気比銅鐸作られる。
59	垂仁 88	7月10日、天日槍の将来した神宝を但馬国より献上させ、これを神府に蔵す（同前）。
71	景行 元	3月12日、垂仁天皇の命を奉じ、田道間守、常世国より非時香果を得て帰る。天皇の崩御を聞き、陵前に泣き伏して殉死する（同前）。
200～ 300		妙楽寺山に墳墓群の造営はじまる。
350ころ		このころ、森尾古墳造られる。森尾古墳出土の神獸鏡に□始元年（240）の銘がある。
350～ 450		森尾・北浦古墳群、立石古墳群など造営はじまる。
400～ 500		正法寺・七ツ塚古墳群、納屋・ホーキ古墳群など造られる。
500半ば ころ		妙楽寺・見手山前方後円墳造られる。このころから横穴式石室を内部主体とする古墳群が盛行する（引野・大師山古墳群・上佐野古墳群など）。
500後半		田結・風谷古墳造営される。
600ころ		新たな古墳の造営は少なくなる。
700ころ		三宅に寺院が造られる（伝・薬琳寺）。
645	大化 元	中大兄皇子、皇太子となり、藤原鎌足を内臣とし、大化改新を進める。

年 表

701	大宝	元	8月、但馬国など17ヶ国にイナゴの害あり、大風も吹き凶作となる(続日本紀)。
706	慶雲	3	3月、但馬など5ヶ国の19社、初めて新年の幣帛の例に入る(同前)。 7月、丹波、但馬2国に山火事、雷神社に使を遣わして奉幣、雷鳴とともに山火事おさまる(同前)。
710	和銅	3	大和・平城京に都をうつす。
715	靈龜	元	5月22日、従五位上、阿部安麻呂を但馬守に任命する(続日本紀)。
720	養老	4	この年、城崎・曼荼羅湯が、道智上人1000日の秘法勤行により湧き出すという(温泉寺縁起)。
737	天平	9	7月、諸国疫飢の民に賑給する。但馬の疫病の徒、1712人に粥糧料を給する(但馬国正税帳)。 このころ城崎・温泉寺創建(温泉寺縁起)。
750	天平勝宝	2	1月8日、但馬国司・揚侯史真身は奴婢の池磨・槽磨・藤磨・田吉女・小当女の5人を朝集使に付して、奈良に送る(東南院文書)。
751	〃	3	2月26日、池磨・槽磨、但馬国に逃げ帰る。国司、捕えて造東大寺司に進上する(同前)。 7月2日、造東大寺司、逃亡した池磨・槽磨を送還する(同前)。
763	天平宝字	7	9月21日、但馬国等6ヶ国稔らず、使を遣わして損毛を調査させる(続日本紀)。
769	神護景雲	3	この年、城崎郡那佐郷・二方部豊島、脂雲龍を進上する(平城宮址出土木簡)。
770	宝龜	元	7月18日、但馬国に疫病流行する。病者に賑給する(続日本紀)。
783	延暦	2	9月1日、但馬・紀伊・阿波3ヶ国は公田数少なく、班給に不足するので以後、王臣家の位田を停止させる(類聚国史)。
794	〃	13	山城・平安京に都をうつす。
804	〃	23	1月26日、但馬国治を気多郡高田郷にうつす(日本後紀)。
808	大同	3	5月30日、但馬国飢饉。使を遣わして賑給する(同前)。
842	承和	9	2月29日、但馬国城崎郡・寿永寺を定額寺とする(続日本後紀)。 10月15日、気多郡の山神・雷神・戸神・檮椒神・城崎郡の海神を官社に列する(同前)。
868	貞観	10	12月27日、出石・粟鹿・山神・戸神・雷神・檮椒神・海神の神階を昇叙する(三代実録)。
873	〃	15	12月17日、水害にあった城崎郡の百姓で、窮困のもの747人に給復(租税を1年間免除)する(同前)。

885	仁和	元	2月10日、絹卷神の神階を昇叙する（同前）。
961	応和	元	6月5日、藤原師輔、但馬国大浜庄他21ヶ所を譲る（華頂要略）。
990	正暦	元	2月14日、妙香院慈忍、但馬国大浜庄他10ヶ所の庄園を妙香院に施入する（門葉記）。
1023	治安	3	天台の僧・教範、霊夢により三坂寺堂塔を再建するという（安楽寺由緒書）。
1028	長元	元	7月24日夜、但馬国の百姓、関白・藤原頼通邸門外から国司の苛政を放呼する（小右記）。
1035	〃	8	12月25日、但馬国・八幡別宮司、国司と闘争する。太少史・高橋文俊を遣わして、但馬守・源則理を推問する（日本紀略）。
1037	長暦	元	5月20日、則理を土佐国に流す。12月9日、恩赦によりて則理らを召し返す（扶桑略記）。
1131	天承	元	3月13日、平忠盛、三十三間堂造立の功により但馬守に任ぜられる（平家物語）。
1156	保元	元	保元の乱起り、源為義ら斬られる。
1180	治承	4	10月27日付、源頼朝より妙楽寺宛書状下さるという（妙楽寺文書）。
1185	文治	元	この年、但馬総追捕使・小野時広、進美寺に平氏倒伏祈願を命じ、観音経1万巻を転読させる（日高町・進美寺文書）。壇ノ浦の戦いで平氏滅びる。
1186	〃	2	5月25日、法橋昌明、源一郎行家を討ち、その首を鎌倉に送る。その功により但馬国太田庄の他1ヶ所をたまわり、太田氏を称する（吾妻鏡）。
1192	建久	3	源頼朝、征夷大將軍となり、鎌倉幕府を開設する。
1193	〃	4	3月18日、幕府、兵衛尉基清に令して、平氏の残党・越中盛継を討たせる（吾妻鏡）。
1197	〃	8	7月、但馬守護・安達親長、但馬国御家人交名を注進する（広橋家古記録）。
			10月4日、幕府、8万4000基の塔を供養し、保元以来諸国叛亡者の冥福を祈り、但馬国に300基を付す（進美寺文書）。
1201	建仁	元	正月17日、平等院領樋爪庄と妙香院領大浜庄の争いを協議する（猪熊関白記）。
1202	〃	2	閏10月9日、幕府、但馬国田結庄の乱妨停止を協議する（増野春氏文書）。
1208	承元	2	権大僧都より大納言僧都（京都・曼殊院承兼僧正）に私領・但馬国浮賀谷寺などを譲る（曼殊院文書）。
1214	建保	2	2月17日、但馬国木前庄を明禅僧都に付す（洞院部類記）。

年 表

1221	承久	3	5月14日、承久の変起こる。北条義時追討のため、後鳥羽上皇但馬ほか14ヶ国の兵を、鳥羽城南寺に集める。但馬国・朝倉八郎参じる（承久記）。 このころ、法橋昌明、院使を斬る（吾妻鏡）。 7月24日、幕府、雅成親王を但馬に流し、法橋昌明をして守護させる（王代一覽）。
1231	寛喜	3	4月25日、但馬・氣比水上庄等を無品・尊守親王家の門跡領とする（門葉記）。
1234	文暦	元	10月12日、良快、無動寺領・但馬国小田井社などを、慈源に譲る（御門跡領惣目録）。
1255	建長	7	2月10日、三品・雅成親王死す（55歳）（百練抄）。
1268	文永	5	5月30日、但馬国上三江庄を色王丸に譲る（岩松文書）。
1281	弘安	4	弘安の役起こる。
1285	〃	8	12月、但馬国守護・太田政頼、但馬国太田文を注進する（但馬国太田文）。
1293	永仁	元	9月11日、幕府、但馬・水上庄雑掌と地頭・太田政頼との争論を裁定し、所務条々を定める（清水寺文書）。 この年、豊岡・光妙寺、真宗に転じる（光行寺寺記）。
1299	正安	元	この年、河内国・大春日重安、但馬氣多郡・東楽寺の鐘を鋳る（大日本金石志）。
1321	元享	元	この年、豊岡市九日市の西光寺開祖・一阿澄道死ぬ（西光寺過去帳）。 11月29日、妙楽寺、持明院の祈祷を行なうという（妙楽寺文書）。
1332	元弘	2	3月8日、幕府、聖護院静尊法親王を但馬に流す（太平記）。
1333	〃	3	3月17日、但馬守護・太田守延、静尊法親王を奉じて丹波篠村に赴き、千種忠頭 <small>の</small> 軍に合する（同前）。 4月8日、太田守延、京都二条口にて戦死する（同前）。 この年、小田井神社の神主たち、神宝を奉じて船上山に赴き、後醍醐天皇行幸の供をつとめるという（小田井神社文書）。
1336	延元 建武	元 3	5月、新田義貞、鎌倉を襲い幕府滅亡する。 3月30日、足利の党・今川頼貞、兵を率いて但馬に赴く（広峯文書）。
1337	延元 建武	2 4	5月16日、氣比城合戦（同前）。 正月1日、但馬の南軍、援を新田義貞に乞う。この日、新田義宗が三開山城に入る（南朝編年記略）。 5月19日、足利直義、小俣来全を遣わして但馬・丹波の南軍を討たせる（新編会津風土記）。

1338	延元 曆応 延元 曆応	3 元 4	6月21日、伊達三郎義綱は田結庄城で軍忠し、7月にその旨を桃井兵部大輔盛義に報告する（伊達文書）。
1339	延元 曆応	4 2	8月、北朝、足利尊氏を征夷大將軍に任じ、足利幕府発足する。 12月26日、足利尊氏、但馬・金剛寺に、同国池内村および押坂社を寄進し、塔婆料所に充てる（金剛寺文書）。
1341	興国 曆応	2 4	3月20日、山名時氏とその子・師氏、塩冶高貞を討つ（太平記）。
1344	興国 康永	5 3	1月、山名時氏父子、但馬・三開山城を攻めて落とす。時氏は三開山城に移り、自ら但馬守護を称する（妙楽寺文書）。
1348	正平 貞和	3 4	この年、今川頼貞は下鶴井公文職を播磨・清水寺に寄進する（清水寺文書）。
1353	正平 文和	8 2	6月29日、これより先、山名時氏は山陰道を従えて東上し、この日、進んで京都を衝かんとする（園太曆）。
1354	正平 文和	9 3	7月20日、敗れて山名時氏、但馬に赴く（同前）。 10月11日、南党の石塔頼房は中国の南軍が但馬・九日市場に至ると聞き、伊達真信を宿南駅に集める（伊達文書）。
1356	正平 延文	11 元	伊達真綱、北党の将・今川頼貞に従い、8月、大坪城・五箇庄城・水生山城・奈佐城・八代城を攻める（同前）。
1358	正平 延文	13 3	4月6日、北党某が伊達朝綱らを率いて、大篠岡に戦う（同前）。
1362	正平 貞治	17 元	11月18日、足利義詮、兵を丹波に遣わし山名時氏の軍を討たせる（東寺百合文書）。
1363	正平 貞治	18 2	9月10日、山名時氏、幕府に降る（小早川什書）。
1366	正平 貞治	21 5	8月22日、建長寺、但馬・鎌田庄を天龍寺領・武蔵津田郷と交換する（鹿王院文書）。
1372	文中 天授	元 5	この年、山名師義、但馬国守護職に任じられる。
1379	康曆	5 元	9月17日、足利義満、南禅寺住持・妙葩に但馬・鎌田庄などの地頭職を与える（鹿王院文書）。
1390	元中 明德	7 元	3月、足利義満、山名氏清らに山名時熙を討たせる。
1391	元中 明德	8 2	12月、山名氏清・同満幸そむく。足利義満、山名時熙らをしてこれを討たせる。
1392	元中 明德	9 3	正月4日、山名時熙、但馬守護となる（明德記）。
1395	応永	2	10月、後龜山天皇、神器を後小松天皇に授け、南北朝合体する。
1427	〃	34	山名時熙、大機禪師に大安寺・宝勝寺・盛重寺を造立させる。 10月28日、幕府は山名時熙らをして赤松満祐を討たせる（満濟准后日記）。
1428	正長	元	この年、三宅の中島神社の建築完成する。大工棟梁は大伴半太

年 表

1430	永享	2	夫久清（中島神社棟札）。 8月18日、但馬国に大洪水。小田井神社御門と拝殿流失する（小田井社記録）。
1438	〃	10	この年、法花寺村・酒垂神社新（ちょうな）始め（棟札）。
1441	嘉吉	元	9月10日、山名持豊、赤松満祐を播磨に討つ（建内記）。 閏9月、幕府、満祐討伐の功を賞し、山名持豊を播磨守護に任じる（斎藤基恒記）。
1442	〃	2	12月17日、垣屋続成（楽々前城主）、故・安田源三郎の戦功を賞し、子・千松丸に大浜庄の領家職半分を与える（日高町・安田家文書）。
1443	〃	3	5月20日、但馬・金剛寺周超、伏見宮貞成親王に就いて金剛經を献じ、祈願寺たらんことを請う（多聞院日記）。
1444	文安	元	3月29日、日真上人、九日市の山名の館で誕生（妙経寺由来記）。
1445	〃	2	5月24日、持豊、赤松満成を有馬に攻める（東寺執行日記）。
1450	宝徳	2	東大寺、八幡宮供御所造堂段銭を伊勢・三河・伯耆・美作・但馬・讃岐の6ヶ国に課す（東大寺文書）。
1454	享徳	3	11月4日、赤松則尙のにより、將軍・義政、山名持豊を誅せんとする。細川勝元のとりなしで思い止まる。持豊は但馬に帰り、代わって教豊上洛する（康富記）。
1455	康正	元	5月12日、山名持豊、赤松則尙を播磨に攻める（嘉吉記）。
1467	応仁	元	1月18日、応仁の乱起る。5月26日、山名持豊、分国の兵を徴し、垣屋・田結庄・八木、これに応じる（村岡・山名家譜）。この年、但馬州津山関・佐々木兵庫助源国吉、使を朝鮮に送る（海東諸国記）。
1471	文明	3	3月22日、山名頼忠、奈佐氏に支援されて、西軍・垣屋宗忠を、豊岡・九日市城に攻める。垣屋氏、ここを守り、頼忠敗走、奈佐氏滅びる（応仁別記）。4月1日、垣屋宗忠、丹波・普甲寺山に武田・天竺らと戦う（応仁広記）。
1472	〃	4	このころ、京都・相国寺僧・古磻、城崎郡・祥雲寺に入る（片岡瀬樹・大竜山祥雲寺考）。
1473	〃	5	6月18日、山名持豊（70歳）死ぬ（大乘院寺社雑事記）。
1477	〃	9	11月11日、応仁の乱終結。翌12日、山名一家の輩、同縁者の六角など、ことごとく陣を払って分国に赴く（応仁後記）。
1478	〃	10	9月、山名政豊、但馬国に下向し、兵を集めて赤松政則と対する（備前文明乱記）。
1483	〃	15	8月、山名政豊、兵を率いて播磨を攻める（実隆公記）。 12月15日、山名政豊、赤松政則を播磨・真弓峠に破る（大乘院寺社雑事記）。

1485	"	17	11月23日、足利義尙、毘沙門堂忠承に但馬国木崎庄などの所領を安堵する（三千院文書）。
1486	"	18	2月、城崎郡・西光寺焼亡。ついで8月、西光寺一衆、再興勅進す（但路西光寺化縁疏並序）。
1487	"	19	2月28日、山名政豊、赤松政則のため播磨・坂本城に大敗する（蔭涼軒日録）。
1488	長享	2	7月18日、山名政豊、陣を撤して但馬に還り、赤松政則は播磨・備前・美作を回復（同前）。 9月2日、但馬守護・山名政豊の部下、政豊を廃し、その子・俊豊を立てんとする。よって田公某、政豊を奉じて木崎に抛る（同前）。
1490	延徳	2	2月1日、山名政豊、兵を美作に出す（同前）。
1491	"	3	8月19日、但馬守護・山名政豊、その子・俊豊を遣わし、兵を率いて、將軍・義尙の近江の陣に参会させる（後法興院政治家記）。12月12日、斉藤寿明・垣屋某、政豊に叛く（大乘院寺社雑事記）。
1493	明応	2	7月13日、山名俊豊、父・政豊と但馬に戦う（蔭涼軒日録）。
1495	"	4	6月2日、但馬守護・山名政豊、円通寺大智院領・出石郡穴美郷の段銭を免ずる（村岡・山名家譜）。
1502	文亀	2	9月28日、社殿の再建を但馬守護・山名政豊から沙汰たまわりたいと小田井神社が願ひ出る（小田井社記録）。
1518	永正	15	3月24日、小田井神社の舞会の当番寺の三坂寺が無力につき、正法寺に行なわせる旨の宇津若狭守の報告に対し、垣屋重時より承諾状を送る（小田井社記録）。 7月23日、但馬守護・山名誠豊から小田井神社へ社領安堵状を送る（同前）。
1523	大永	3	11月19日、但馬守護・山名誠豊が播磨に敗れ、帰国する（実隆公記）。
1526	"	6	12月4日、山名誠豊、丹波に出陣する（同前）。
1528	"	8	10月1日、但馬守護・山名祐豊、光行寺の諸課役を免除する（光行寺文書）。
1555	弘治	元	7月11日、因幡・但馬の水軍が出雲の浦々を攻める。
1559	永祿	2	8月24日、気多郡伊福城主・河本新八郎、明智側に組みして水生山城を攻める。9月10日、赤木丹後守・西村丹後守が使者となり、水生山城を両者の支配下に置く（日高町・河本家文書）。
1569	"	12	この春、尼子勝久は奈佐日本之助をはじめ丹後・但馬の牢人らを催して雲州に入る（阿波国古文書）。 8月13日、織田信長は毛利元就の求めに応じ、その将・木下藤

年 表

			吉郎に命じて播磨・但馬の諸城を攻略させる（益田家什書）。 8月、信長は生野銀山を収めて、生熊左兵衛尉を代官とする（生野銀山代官之記）。 この冬、さきに此隅山城を追われ、堺に亡命した山名祐豊が但馬に再入国する（今井宗久日記）。
1570	元龜 元		5月、奈佐日本之助ら丹後・但馬の士が尼子勝久に組みし、出雲・隠岐の沿海を掠奪（萩藩閩閩録）。
1571	〃 2		6月2日、佐伯孫左衛門が越中守孝統と下野入道宗現から大浜庄の45石分の稗田を買う（一日市・佐伯家文書）。 この年、竹田城主・赤松広秀、山名豊国を攻める。田結庄左近将監、城崎郡の軍兵をもって山名を援け赤松を破るといふ（日高町・河本家文書）。
1573	天正 元		3月、大洪水。六地藏・下宮・法花寺がもっとも惨害を極める（三江誌）。
1574	〃 2		4月、織田信長、足利義昭を追放し、室町幕府滅亡する。 5月、保田市三郎、小二見村に新田高40石を開墾する（保田勘左衛門家文書）。
1575	〃 3		10月、野田合戦起り山名祐豊の将・垣屋豊統が但馬・鶴城の田結庄是義を隙に乗じて襲い、同城を落とし、是義は自害（吉川家什書ほか）。
1577	〃 5		この年、轟城主・垣屋豊統は羽柴秀吉入但の時、気多郡水生山城で諸将と盟約、籠城3ヶ年に及ぶ（校補但馬考）。
1580	〃 8		6月、羽柴秀吉は弟・秀長に但馬を平定させる。出石城（有子山城）陥り、山名氏滅ぶ（統太平記）。出石には青木勘兵衛を置く（太閤記）。 6月13日、水生山城合戦に軍功のあった岡遠江守へ、垣屋駿河守豊統から感状を送る（田結庄家文書）。 この年、秀吉、宮部善祥房を封じて豊岡城主とする（豊岡京極殿半知之記）。
1581	〃 9		春・夏、鎌田庄日撫に疫病流行（港村誌）。 6月25日、羽柴秀吉は但馬国から因幡国に討ち入り鳥取を攻める（信長公記）。 6月26日、五ヶの浦人ら、気比庄浦々のあみ役（年貢）について、宮部善祥房家臣・友田殿に報告書を提出（瀬戸村文書）。 8月、宮部善祥房は六地藏村・鈴木三郎左衛門が野田庄荒地を開墾したことを賞し、大隅玄番屋敷の地子を永代免許する（河本家文書）。 この年、宮部善祥房、豊岡五町の地子を免除する（豊岡誌ほか）。

1582	〃	10	3月15日、秀吉は播磨・但馬・因幡三国の兵を率いて姫路を発し、備中に向かう（秀吉事紀）。 このころ、秀吉、木下助兵衛秀定を豊岡城主とする。
1583	〃	11	8月10日、秀吉は但馬の守護に前野長康（出石）・赤松広秀（竹田）・別所重棟（八木）・明石左近（豊岡）らを、郡を分けて任じる（校補但馬考）。
1584	〃	12	秀吉、尾藤知定を豊岡城主とする。在城2年で讃岐・高松城に移る（豊岡京極殿半知之記）。
1587	〃	15	3月、秀吉による九州・島津征伐起る。豊岡城主・明石左近も軍勢800人を率いて従う。
1588	〃	16	4月14日、後陽成天皇、聚楽第に行幸。豊岡城主・明石左近、但馬諸城主らとともに前駆をつとめる（太閤記）。
1590	〃	18	7月5日、秀吉、小田原城を攻め、北条氏直を降す。駿河・府中城に豊岡城主・明石左近、500人で出兵する。
1591	〃	19	3月26日、三原村と畑上村の山堺論争が和解（港村誌）。 8月、伊賀谷村検地帳できる（伊賀谷・武田三郎家文書）。
1592	〃	20	1月、秀吉、征明の軍を起こす。
文祿 元			3月1日、秀吉は出石城主・前野但馬守、豊岡城主・明石左近、竹田城主・赤松広通、八木城主・別所豊後守らに出兵を命じ、京都に備えさせる（太閤記）。
1593	〃	2	12月、明石左近、妙楽寺の諸公事を免除する（妙楽寺文書）。
1595	〃	4	7月15日、秀吉、秀次を自殺させる。7月、豊岡城主・明石左近、豊臣秀次の事に座し、小早川隆景に預けられ自殺し、国除かれる。出石城主・前野長康も中村式部少輔に預けられ、駿府府中で自殺し、国除かれる（太閤記）。 秀吉、福原右馬助を封じて豊岡城主とする（豊岡京極殿半知之記）。 この年、小出大和守が出石城主となる。所領6万石（同前）。
1596	〃	5	9月、鎌田・久々井分名寄帳できる（鎌田・足立六左衛門家文書）。
慶長 元			10月、秀吉、再び朝鮮へ出兵の軍を起こす。豊岡城主・福原右馬助、従軍する。
1597	〃	2	杉原伯耆守を封じて、豊岡城主とする（豊岡京極殿半知之記）。
1600	〃	5	9月、関ヶ原の合戦起り但馬の諸大名、丹後・田辺城を攻める（丹州三家物語）。
1603	〃	8	2月、徳川家康、征夷大將軍となり、江戸に幕府を開く。
1604	〃	9	小出大和守吉政、岸和田城に移り、嫡子・吉英、出石城主となる。所領6万石のうち叔父・三尹 <small>みつまさ</small> に陶器領1万石 <small>かわらけ</small> を分ける。
1609	〃	14	4月14日、類焼によって来迎寺堂宇・仏具焼失（来迎寺文書）。

年 表

1610	"	15	豊岡城主・杉原長房は妻子を江戸に置いて、証人とする（寛永諸家図伝）。
1611	"	16	浅野長政は、常陸国新治郡小栗庄5000石を豊岡領主・杉原長房に譲る（城館歴譜）。
1613	"	18	10月18日、岸和田城主・小出吉政卒(49歳)。嫡子の出石城主・小出吉英は、岸和田に移り、二男・伊勢守吉親が出石城主となる（藩翰譜）。
1614	"	19	山王社建立。妙楽寺に依頼して遷宮を行なう（日吉神社文書）。杉原長房、六地藏村の西方に渠を通じ、円山川の水勢を分かちつ。後世、これを堀川と呼ぶ（豊岡誌）。
1615	元和	元	5月、大坂夏の陣起り、豊臣氏滅亡する。
1619	"	5	幕府、小出吉英を再び出石城主とし、吉親を丹波・園部に移す（枚補但馬考）。
1620	"	6	沢庵、出石・宗鏡寺に投淵軒をつくり、寛永4年まで滞在する（同前）。
1629	寛永	6	2月、杉原長房卒し、嫡子・重長が豊岡城主を継ぐ（豊岡誌）。6月18日、九日市上ノ町村・女代神社の神楽殿など三殿焼失し、神領召上げとなる（女代旧記）。
1644	正保	元	10月、杉原重長卒し、子なく竹中帯刀重玄を養子としようとするが幕府は許可しない（同前）。
1645	"	2	閏5月、幕府は重長の封3万石を収め、竹中重玄に1万石を与えて豊岡藩主とし、杉原氏を継がせる（同前）。
1650	慶安	3	4月、宮井村から土地訴訟。豊岡藩は検地を行ない田畠改帳をつくる（三宅家文書）。
1652	"	5	この年、杉原重玄、領内の寺社（雷神社・西光寺・妙楽寺・温泉寺など）寄進地を改めて安堵する（各寺社文書）。
1653	承応	2	10月、重玄卒。継嗣なく杉原氏断絶する（寛政重修諸家譜。以下、『諸家譜』と略す）。
1654	"	3	3月28日、瀬戸村宗門改帳（瀬戸村文書）。8月、京都代官・五味備前守は幕命を奉じて、杉原氏の旧封と近傍の公領を収公支配する（諸家譜）。
1663	寛文	3	1月17日、京極高直（法性院）、田辺で卒。年32。3月25日、京極高盛、丹後・田辺城主を継ぐ。3万5000石を領し、2000石を弟・高門に分かつ（同前）。
1664	"	4	彦阪平九郎が杉原氏の旧領（城崎郡・二方郡）を管轄。
1668	"	8	5月21日、従五位下伊勢守・京極高盛、丹後田辺から豊岡に移封。食禄3万5000石（内、2000石は弟・高門分）。
1670	"	10	豊岡藩が城崎郡内村々の検地を始め、延宝8年に完了する（各

1671	〃	11	<p>村検地帳)。</p> <p>4月、小島村から、気比村を相手に「あみの袋とられ候」訴訟(港村誌)。</p> <p>12月17日、足立氏(『諸色覚日記』記録者の祖)香住に移住する(田井家『諸色覚日記』。以下、『諸色』と略す)。</p> <p>3月15日、豊岡藩、領内の検地を行なうに当たり、妙楽寺の所有地を従来通り免租地とすることを保証する(妙楽寺文書)。</p>
1672	〃	12	<p>7月5日、大雨。6日洪水。晩稲が穂を出す(諸色)。</p> <p>11月22日~24日大雪、7、8尺の積雪(同前)。</p>
1673	〃	13	<p>5月13日に大雨。14日に洪水。長谷・香住のふけ、立石分うわた口あたりに稗をまく(同前)。</p>
延宝	元		<p>9月、二方郡・亀谷山論の判決下り、戸田村の勝ちとなる。滝田村大庄屋・助之進、年寄・惣兵衛が豊岡で斬首される(浜坂・小林与志雄家文書)。</p>
1674	〃	2	<p>3月、高盛致仕し、弟・高住が継ぐ。甲斐守に任じられる(諸家譜)。</p> <p>8月9日から10日の夜まで大風。洪水となる。大悪作で翌3年の春に餓死者が出る(諸色)。</p> <p>この年、若狭屋の目論見で出石藩の札遣いが始まる(同前)。</p>
1675	〃	3	<p>土測村・小左衛門がにせ銀をつかい、鳥取で捕えられ、出石構口ではりつけ(同前)。</p> <p>春、豊岡藩の小頭・伝右衛門は、放火のかどで火あぶりの処刑(同前)。</p> <p>10月5日、津居山村は、うわな浜の件で瀬戸村を相手に訴訟(港村誌)。</p>
1677	〃	5	<p>出石藩家老職(仕置役)の郡奉行職代わる(諸色)。</p>
1678	〃	6	<p>春、豊岡藩の申し出により、出石藩米蔵を豊岡領今津村から清冷寺村へ引き普請(同前)。</p> <p>夏、京極甲斐守(高住)入部。来迎寺で御前相撲(同前)。</p> <p>秋、豊岡藩銀札通用始まる(鳥井家『公私之日記』。以下、『鳥井』と略す)。</p>
1680	〃	8	<p>10月23日から雪降り。9年2月まで大雪。麦ことごとくくさる(諸色)。</p> <p>豊岡・鍋屋庄五郎、赤石村古川で新田2町9反6畝を開発(峠家文書)。</p>
1681	〃	9	<p>立石村の「赤坊主」が盗みに押し入り、打首獄門(諸色)。</p>
1684	貞享	元	<p>3月、豊岡藩、浜坂地方の地詰めを行なう。浜坂・勝願寺の2反5畝24歩を免許地とする(勝願寺記録)。</p>

年 表

1686	〃	3	7月25日、大風雨。夜から洪水。悪作となる（諸色）。
1687	〃	4	立石村と倉見・長谷・上鉢山3ヶ村との山論（ホウガ谷）。3ヶ村側が敗訴（同前）。 この年、奥野村と森尾村・香住村と山論（同前）。 この年、正法寺村から興国寺溜地の構築を申出る。
1688	元禄	元	8月13日、狐鉄砲110挺を豊岡藩領中に配る（舟木）。
1689	〃	2	この年、奥野村と三宅村との山論（諸色）。
1691	〃	4	12月26日、小出吉重卒し、英益が出石城主を継ぐ（同前）。
1692	〃	5	10月10日、小出英益卒し、大藪・小出氏の英長を養子として出石城を継がせる（同前）。
1694	〃	7	12月17日、小出英長卒し、翌年2月14日に久千代（1歳）が出石藩主となる（校補但馬考）。
1696	〃	9	10月、出石城主・小出久千代早世し、小出家断絶（同前）。 11月1日、出石札場の鍋屋・手辺の龍野屋打ちこわし。2日、伊佐村新田の家々を安良村・作兵衛などが打ちこわし（諸色）。 12月6日、出石城を明け渡し、小出家家臣退去（同前）。
1697	〃	10	2月、武蔵岩槻城主・松平忠周が出石を受封し、4月に入国（諸家譜）。
1698	〃	11	春、上佐野村（出石領）と口佐野（豊岡領）との間に川公事おこる。翌年、出石方非分に落着（同前）。 この年、興国寺の梵鐘を鑄造（現在、香住町一日市・長福寺所有）。
1699	〃	12	9月、遊行上人が出石・昌念寺、豊岡・光妙寺へお越し（諸色）。
1700	〃	13	中島神社本殿修理（中島神社記録）。
1701	〃	14	3月10日、金剛寺谷の入会山山論おこる（山本・金剛寺・森・宮島・船町・六地藏6ヶ村と野上村との争い）（岩本家文書）。
1702	〃	15	大石りく、夫・良雄のもとを去り、吉千代、くうをともない豊岡に帰る（内海定治郎・豊岡と大石内蔵助夫人）。 豊岡町大火。御霊神社と宮部継潤から拝領の「五町地子免許状」焼ける（豊岡誌）。
1705	宝永	2	2月27日、津居山村漁師と小島村漁師の狼争いが、乱闘となる（港村誌）。 4月26日、今まで豊岡町のうち五町については「町代」と呼ばれていたのを「名主」と改められる（鳥井）。
1706	〃	3	正月、信濃上田城主・仙石政明、出石城主となる（所領5万8000石）。松平忠周は上田に移封を命じられる。
1707	〃	4	10月、幕府の禁令が出され、11月2日に銀札発行停止となる

		(同前)。
1709～ 1711	〃 6～ 8	酒垂神社の軒桁以上の解体修理を行なう(酒垂神社棟札)。 2月1日、京極高盛(陽林院)、江戸で卒す。
1711	正徳 元	久々比神社本殿修理(久々比神社棟札)。
1714	〃 4	高住致仕し、子の修理高栄が継ぐ。加賀守に任じられる(諸家譜)。
1716	享保 元	徳川吉宗、将軍となり、享保の改革はじまる。
1716～ 1717		疫病流行。瀬戸村で87人死亡、空家もできる(港村誌)。
1717	〃 2	仙石信濃守政房、出石城主となる(諸家譜)。 ホウガ谷山論、三度起こる。江戸沙汰となり香住・倉見・長谷3ヶ村の入会いを認め、上鉢山村の入会いも勝手次第となる(長谷区有文書)。
1721	〃 6	6月13日、京極高栄、江戸で卒。年32(源照院)。8月、その子・高寛が継承。時に5歳。
1722	〃 7	11月、江戸の磯野八郎兵衛・福井奥右衛門から、円山川に高瀬舟を通行させることにつき、津居山村から豊岡・永井町間の村々に申出て証文をとりかわす(佐伯家文書)。
1726	〃 11	9月12日、京極高寛卒。10歳。所領は取公されたが、弟・高永(7歳)があらためて旧領中の1万5000石を賜わる(諸家譜)。 12月25日、大坂谷町代官・平岡彦兵衛貞慶が豊岡藩旧封地を受受する(豊岡誌)。
1727	〃 12	4月、豊岡藩は封内の富民にさとし、銀5貫500匁を借りる。 また、藩士187人の籍を削る(同前)。 但馬一円の天領農民が石代銀納について愁訴する。13年・14年にも愁訴する(宮井『三宅家文書』。以下、『三宅』と略す)。
1730	〃 15	8月13日、京極高住(普明院)が江戸で卒。年71。
1731	〃 16	生野代官・岡田庄太夫が廻船法度について通達を發する(津居山村文書)。 5月1日、幕府の許しを得て豊岡藩銀札を再發行する(鳥井)。
1732	〃 17	6月、桃島村地内の川筋に、豊岡町の紙屋と丹後屋が新田開発をする(小島村文書)。
1735	〃 20	この年、丹後・湊村より代官陣屋を久美浜に移す。久美浜代官所始まる(久美浜町誌)。 生野代官・小林孫四郎が上納米を江戸回米とすることに反対して、天領農民が愁訴する(浜坂町史、三宅)。 仙石越前守政辰、出石城主となる。

年 表

1737	元文	2	7月、凶作につき、戸牧・岩井・宮井・庄・吉井・内町の村々が生野代官所へ検見願を提出（三宅）。 この冬、豊岡町の医師・岸田敬義は『但州発元記』を著わす。
1738	"	3	春、津居山村に久四郎火事起こり、村方過半及び照満寺類焼（照満寺文書）。
1740	"	5	12月16日、朝来の窮民が生野代官所を襲う（朝来志）。 3月6日、三宝院門跡・高賢大僧正が湯島に入湯。旅館は京極甲斐守高永の「里の別館」で21日間入湯（温泉寺文書）。
1744	延享	元	出石町大火で246戸が焼ける（但馬考）。
1748	寛延	元	7月2日、但馬・丹後大風雨（兵庫県水害誌）。
1751	宝暦	元	11月、出石藩士・桜井良翰、『但馬考』を著わす。
1751~ 64	宝暦年中		畑上村全村類焼。林火事という（港村誌）。
1754	宝暦	4	瀬戸村大火。頂福寺類焼（瀬戸村文書）。 女代神社と太夫、神事を京都・吉田家に願ひ出たが、無官のため小田井社の大石紀伊守に妨げられる（女代旧記）。
1755	"	5	江戸・磯野屋亀松が許可を得て、毎年9月から翌年2月までに限り、竹田から豊岡まで円山川高瀬舟を通航（但馬考）。 この年、大水害。但馬国内溺死人、数十人という（港村誌）。
1756	"	6	正法寺村と、戸牧村間に山論おこる（伊原家文書）。 11月28日、出石の宗鏡寺町・米屋東右衛門、長谷村前に高106石6斗2升の開発を請ける（田井）。
1757	"	7	このころ、前波黙軒が歌集『蕉雨園集』を刊行する。
1758	"	8	2月26日、生野代官、円山川川筋を検分（舟木）。 7月15日、興国寺で大施餓鬼。下役人ら警固（同前）。
1760	"	10	8月12日、京極高永（靈瑞院）、豊岡で卒。年41。世子・高品が豊岡藩主を継ぐ。12月、従五位下甲斐守に任じられる（諸家譜）。
1761	"	11	6月10日、豊岡藩は「諸士武芸可心懸事」など15ヶ条の御触れを諸士に通達（舟木）。
1762	"	12	正月28日、豊岡藩は高柳兵庫を20人扶持で召し抱える（舟木）。 2月3日、宗門改め。儉約きびしく、行司名主ら一統弁当持参、子どもにも菓子を与えない（鳥井）。 2月24日、宵田町・油屋彦左衛門、中町・糞屋嘉十郎、下町・鍋屋又左衛門の各名主は札場元メ役に就任し、名主役ご免となり、苗字帯刀を許され3人扶持をうける（同前）。 6月7日、町方大火。新屋敷から出火、小田井町の前から上は中町・久保町きりで消し止める。建物・蔵520ほど焼失。鳥井

			家も土蔵2ヶ所を含み丸焼け(同前)。 7月27日、京極高行(成義院)卒(同前)。
1763	"	13	6月5日、豊岡藩は高柳兵庫を加判列に起用し、儉約令を布く(同前)。 12月6日、骨柳触書布告。大坂に骨柳問屋1軒を設置、仲買の仲間も5軒に指定し、豊岡藩の準専売制とする(同前)。
1764	明和	元	8月3日、円山川出水。藩士へ避難準備を命じる(舟木)。
1765	"	2	9月、女代神社本殿建立。明和5年3月13日正遷宮(女代旧記)。
1768	"	5	7月21日、大洪水で女代神社本殿丸柱石場に水が上がる(同前)。 10月、出石郡下郷12ヶ村の百姓が出石城下川原に押し寄せ、貢租の減額を要求して騒動を起こす。入牢3人、そのほか処分を受けた者32人。
1769	"	6	2月、豊岡藩、徒党禁制に触れる。
1770	"	7	5月5日~11日、小田井神社で五穀成就の祈禱。この春、米高値、上米65匁(女代社文書)。
1771	"	8	出石御用銀として銀800匁を森尾村・源太夫及び市場村・伊右衛門など下郷組16人に3300匁割付け(田井)。
1772	"	9	4月13日、豊岡町大火。鍛冶町・中町・裏町300余戸焼ける(女代社文書)。 8月20日、豊岡地方大洪水(同前)。
1773	安永	2	4月4日、遊行上人が西光寺へ御廻来(同前)。
1776	"	5	野上と下鶴井の川筋中島入割り一件につき、大庄屋・佐伯浅右衛門出府。この際、一日市三役から誓約書を徴する(岩本家文書)。 7月21日、洪水。和久田堰留め、朝五ツより夜五ツ過ぎまで(鳥井)。 23日、堰留めの労をねぎらって4ヶ村(永井・新屋敷・高屋・上陰)庄屋が奉行所で賞美される(同前)。
1777	"	6	9月、豊岡藩、重ねて徒党禁制に触れる(斉藤伊兵衛家文書)。
1779	"	8	8月、出石藩主・政辰死去し、兵部少輔・久行が継ぐ(諸家譜)。 9月6日、豊岡藩、御役用にて在・町へ出張の際、供応を受けないよう藩士に通達(舟木)。
1781	天明	元	5月、小田井神社神主・大石紀伊、日吉神社と争論。豊岡領主(京極高品)より蟄居を命じられる。大石紀伊、九条家に窮状を訴える(小田井社文書)。
1782	"	2	11月28日、豊岡新町火事。19軒焼失(女代社文書)。

年 表

1783	〃	3	7月1日～10日、浅間山大噴火を伝える（同前）。 8月9日より雨降り、10日大水。全国大飢饉（同前）。
1784	〃	4	早春から津居山村方に疫病流行し、大人・小児100余人死亡（照満寺記録）。 4月下旬より雨重く降り、5月27日に豊岡3町で雨上げ祈禱（女代社文書）。 10月8日、丹後・久美浜で百姓一揆。豊岡から150人、出石・峰山・宮津各藩からも出動。同勢700人が加勢し鎮圧（各文書）。この年、伊豆屋弥左衛門、初めて出石・桜尾に陶器製造を始める（伊豆屋弥左衛門文書）。 この秋、乞食多く出る（女代社文書）。 11月14日より津居山村窮民救助のためかゆ炊出し、照満寺および重立ち5軒の奉仕による（港村誌）。
1785	〃	5	10月、出石藩主・久行死去し、越前守久道が継ぐ（諸家譜）。
1786	〃	6	6月中旬より8月9日に至るまで雨降り続き、砂入り、川荒れ、田畑大不作、加うるに虫害を伴う（小島・氣比・津居山各村文書）。 6月中旬より8月9日まで、および8月28日から9月6日まで雨降り続き出水。冠水、崩入り9反。久美浜代官所より役人御検分（同前）。
1788	〃	8	5月、幕府巡見使・松平惣兵衛、中根半平、山岡伝重郎一行、久美浜代官所管轄地を通行（岩本家文書）。
1789	寛政 元		出石・伊豆屋弥左衛門、磁器の試作を行なう（伊豆屋弥左衛門文書）。 5月、江野村、川改修及び用水路普請成る。延長272間（五荘村史）。 5月、40日ばかり旱天のため田植延引。6月に諸方雨乞い。 6月18日、洪水（女代社文書）。
1790	〃	2	7月27日、石東兵庫が豊岡から出奔（舟木）。 大豊作、正月ごろ上米60匁ぐらい。8月10日ごろから新米34匁ぐらい（女代社文書）。
1791	〃	3	5月、京極高品（甲斐守）退任し、養子・高有（峰山藩主・京極高久の次男）が豊岡藩主を継ぐ。12月、従五位下加賀守に任じられる（諸家譜）。 10月、米納ご廻米ご赦免を願い、但馬4郡の百姓代表が久美浜代官所へ愁訴（五荘村史）。
1792	〃	4	7月6日、京極高品（賢明院）が豊岡で卒。年52。
1793	〃	5	2月13日、切流れの鯨を津居山村下磯に引寄せ。久美浜代官

- | | | | |
|------|---|----|--|
| 1794 | 〃 | 6 | <p>所役人検分。重量3160貫目（津居山村文書）。</p> <p>正月18日、江戸大火。豊岡藩江戸屋敷も類焼。2月9日、復興費用に豊岡町内で約50貫、城崎・二方兩郡在方で約30貫、旧領内で約50貫割当て（鳥井）。</p> <p>6月4日、遊行上人廻来。九日市上ノ町村の西行寺に滞留。一行57人（同前）。</p> <p>8月9日、豊岡藩主・京極高有は大坂城加番役を命じられ入城（同前）。</p> |
| 1795 | 〃 | 7 | <p>4月15日、善光寺一行が来迎寺に到着。藩下役警固。16日から如来開帳。19日、鳥取へ（同前）。</p> <p>7月22日、大出水。床上浸水。豊岡上町・小田井町潰家多数（同前）。</p> |
| 1796 | 〃 | 8 | <p>7月4日、京極高有、江戸発駕。24日、帰国（同前）。</p> <p>8月26日、豊岡藩は在・町へ貳百五拾人講を依頼したが一統不承知で中止（同前）。</p> <p>11月、豊岡藩は代官所から町分百姓質地書入れ連印して100両借入れ（同前）。</p> |
| 1797 | 〃 | 9 | <p>上垣伊兵衛、始めて蚕室を奥佐野村に設け、蚕種紙を製して四方に販売（上垣守国年譜）。</p> <p>1月8日、生野代官所よりさらに30両借増す。町方百姓3人質地書入れ印をする（鳥井）。</p> <p>11月29日、梅寿院（豊岡藩主・京極高有の祖母）卒（同前）。</p> |
| 1798 | 〃 | 10 | <p>この年、藩士・四方小左衛門、町人・福井謙斉、豊岡藩郭内に心学講舎・含章舎を設ける（石田・新しい但馬の歴史）。</p> <p>3月11日、豊岡藩、旧債の償還を計り、領内の百姓に米1万石、銀80貫を借りようとし、領内村々の庄屋らを田中庵に集める。この庵を百姓たち多数取り囲み、藩庁に迫る（鳥井）。</p> <p>3月19日、惣百姓中から大庄屋あての願書が町宿に投げ込まれ、夫銀の縮少と夫銀帳の公開を要求。庄屋一統辞職願いを大庄屋に出す。大庄屋が慰留（同前）。</p> |
| 1799 | 〃 | 11 | <p>9月29日、豊岡藩諸士の家内が盆踊りに出ることを禁じる（舟木）。</p> |
| 1800 | 〃 | 12 | <p>4月、気比村と小島村が絹巻内川綱引揚げ争論（小島村文書）。</p> <p>7月9日、宵田町から出火。風強く延焼300余戸。中町・寺町・久保町・滋茂町・新屋敷を焼く。被災者に藩は米1俵を与える。仁右衛門焼けと呼ぶ（鳥井）。</p> |
| 1801 | 〃 | 13 | <p>1月2日、小島村が海漁稼ぎを久美浜代官所に出願。津居山村などの反対のため許されず（小島村文書）。</p> |

年 表

1802	享和	2	7月、小島村と津居山村の海漁争いに対し、久美浜役所より和解申渡し。小島村漁舟は最合網4人乗り4艘を廃し、2人乗り24艘に制限（同前）。
1803	〃	3	福井髭風『懷花庵句帖』（原稿）をつくる。 上垣伊兵衛、大屋の自宅で蚕紙を製し、奥佐野村の蚕室を撤収。 3月16日、服部瑞庵が豊岡藩主に養蚕秘録を献上（舟木）。
1804	文化	元	5月、貯穀改め。瀬戸村は高割り・人別割りに米22俵・稗1俵を集め貯蔵（瀬戸村文書）。
1806	〃	3	幕府領・私領を組替える。戸牧村及び二方郡用土村・新市村・古市村・宮脇村が豊岡藩領となり、木内村の残り・佐野村・下陰村の3分の1と二方郡久谷村が御料（久美浜代官支配）となる（松島家文書）。
1807	〃	4	享和年間着工の来迎寺の本堂再建（来迎寺文書）。 芝村と引野村が荒場庄境について争う（西芝文書）。 8月、白川神祇伯家より女代大神宮の染筆を受ける。御礼5両（女代旧記）。
1808	〃	5	3月21日、異国船警備につき豊岡藩が二方郡浦手を検分（舟木）。 春麦作、出水で皆無。秋稲作は大凶作。乞食札御免、豊岡領内の他村まで袖乞い。豊岡藩から作食米を下付（百合地・斉藤家文書）。 8月、香住村・田井惣助、屋敷内に心学講舎・養浩舎を設ける（神美村誌）。 11月7日、美含郡一日市村に朝鮮人13人漂着。翌年正月20日、豊岡町を通過して出石に引取る。出石藩郡奉行・鷲見久左衛門以下およそ300人が護衛（鳥井）。 17日、豊岡藩が生野から銀10貫を借銀（同前）。 12月、赤石村不作。久美浜代官所へ貯穀拝借願い（峠家文書）。 12月5日、豊岡藩から塩、その他の高い物の舟積みは豊岡町の川船によるよう、他所船利用禁止の触れ（鳥井）。 12月8日、分銅改め。後藤四郎兵衛、高昌又右衛門一行4人が来豊（同前）。
1809	〃	6	2月、六方3ヶ村と、庄境村惣百姓が不作による公租減額嘆願（百合地・斉藤家文書）。 2月5日、一日市大火。18軒焼失（鳥井）。 3月16日、雷神社の拝殿焼失（信部家文書）。 5月17日～21日、赤石村前寄州普請。豊岡領分30ヶ村400人、城崎郡天領から400人、計800人でかかる（鳥井）。

- | | | | |
|------|---|---|--|
| 1810 | " | 7 | <p>4月、久美浜代官支配下城崎郡中に儉約規定を制定（峠家文書）。</p> <p>10月、凶作につき年貢の3分の1を二納銀（翌年3月）とするよう赤石・下鶴井両村から久美浜代官所に嘆願（同前）。</p> <p>この冬、骨柳仲買い仲間が大坂の間屋4軒と紛議、荷物差止めを願う（鳥井）。</p> |
| 1811 | " | 8 | <p>2月9日、気比村で火事。庵とも6軒焼失（善念寺過去帳）。</p> <p>2月17日、大坂の骨柳間屋との争論和解（鳥井）。</p> <p>20日、光行寺本堂（11間四方の長棟造り）再建。このため、万人講と称え富くじ興行（同前）。</p> <p>4月、帯雲寺と養源寺間に、一乗院・竜雲院の件で争論始まる（岩本家文書）。</p> <p>4月26日、風邪流行。久保町内は百万遍くりを行なう。</p> <p>6月6日、豊岡藩が銀札払底のため豊岡札場切手（不換紙幣）を発行（鳥井）。</p> <p>6月19日、町方雇いの足軽（100人の予定）が鉄砲訓練（同前）。</p> <p>6月23日、豊岡藩、鉄砲訓練の雇い足軽に、1人・1日3升の扶持米を与える（同前）。</p> |
| 1812 | " | 9 | <p>2月5日、田結大火。38戸焼失。八五郎焼けという（港村誌）。</p> <p>4月6日、幕府巡見使として勘定役・村田林右衛門、普請役・辻民右衛門、吟味方下役・野々山牧三郎など一行11人、他に生野役人2人、久美浜役人1人来豊（鳥井）。</p> <p>6月4日、町方雇い足軽鉄砲訓練。5日は在方雇い足軽鉄砲訓練（同前）。</p> <p>6月5日、銀札払底のため札場切手発行。11月26日にも発行（同前）。</p> <p>6月15日、丹後湊村・小西林蔵より豊岡藩が18貫目の借銀（同前）。</p> <p>7月18日、昨夜来の雨強く和久田堤を堰くため町方助力。宵田町口で1丈4尺。野田繩手が夜切れる（同前）。</p> <p>8月4日、山王社修理成る。11日、正遷宮（同前）。</p> <p>8月23日、出水。約1丈（同前）。</p> <p>9月7日、女代社本殿改築、正遷宮。この日、神輿は京極藩門前まで通行（女代旧記）。</p> <p>9月8日、夜に絹巻神社焼失（鳥井）。</p> <p>9月10日、出石藩は新札を発行。旧札を額面の半分で引換えると布達（宿南保・仙石騒動）。</p> <p>10月25日、不作で米価高値（鳥井）。</p> |

年 表

1813	〃	10	<p>1月9日、去る12月20日、23日より大雪で潰家、破損家出る。炭・割木高値となる（鳥井）。 3月、出石藩、藩の借銀を5ヶ年間返済停止とする旨を布達する（宿南保・仙石騒動）。 3月19日、高屋村5軒焼失（鳥井）。 4月14日～20日、新屋敷・永井両村の溝（弁天堀一野田溝593間、弁天堀一加広溝343間）をつげかえる。人足139人、費用333匁（同前）。 5月28日、簸磯村川中に珍獣（とど？）出現する（同前）。 8月14日、徳証寺再建のため3ヶ年間、町方念仏を許す（同前）。 10月30日、町内疫病流行に付き、寺町大神楽を願ひ、11月3日藩庁より許可（鳥井）。 閏11月7日、夜、目坂村74軒焼失する（由利『公私之日記』。以下、『由利』と略す）。 11月13日、寺町座頭・菊都（菊一改名）の配当場を許す（鳥井）。 閏11月27日、六部の領中の宿泊を禁じる。この日、銀札払底につき、切手札を発行する（同前）。 12月7日、煙草屋37軒で、問屋を作らんとし願うも却下される（同前）。</p>
1814	〃	11	<p>1月14日、当年、疱瘡流行。 1月18日、伊能忠敬一行、豊岡へ来て測量を行なう。19日、一行朝六ツ時湯島へ。20日、湯島より当所へ（18人）星観測する。21日、出石へ出立（同前）。 6月16日、銀札払底につき、札幌切手発行する。12月16日にも発行（同前）。 6月21日、徳証寺本堂再建開届けられる（同前）。 6月27日、豊岡藩、生野銀山・大野彦右衛門より銀30貫借用、五町名主、印を押す（同前）。 7月20日、疫病流行につき、山王山で祈祷（同前）。 8月3日、雇い足軽鉄砲訓練（同前）。 9月、出石藩主・久道致仕し、政美が継ぐ。 10月、大庄屋の今森村・加藤三左衛門退役、九日市下ノ町・魚屋幸右衛門が仰付けられる（女代社文書）。</p>
1815	〃	12	<p>3月10日～4月6日、京芝居（同前）。 3月19日、豊岡藩主、江戸へ発向する（同前）。 4月、津居山村より瀬戸村を相手に、漁場新規網につき禁止方訴訟。同年10月、久美浜・山本甚左衛門ら内済（瀬戸村の手繰</p>

網漁場・舟数・期間を定める) (津居山村文書)。

5月25日、五十五世遊行上人(一空)、九日市・西光寺に到着、29日、同寺で死ぬ(同前)。

8月8日、この節、町・在ともに、はやり病流行(由利)。

8月～9月、豊岡藩、この年、年貢検見取りのため、各村の早田・晩田を検分する。もみつき法をもって検見し、百姓たち驚く(鳥井)。

10月9日、永井町・鍋屋長次、新田開発の願いを出す。囲み堀の内につき、許されず(同前)。

12月22日、豊岡藩、久美浜町人より銀6貫目借銀する(同前)。

12月24日、奉行所より儉約令及び博奕禁止令出る。十町組頭連印・名主奥印にて請書を提出(同前)。

この年、田中河内介綏猷、医師・小森正造の次男として香住村に生まれる。

1月25日、豊岡藩、年貢先納銀の会釈として10貫文を下す(同前)。

1月30日、さらに3ヶ年の儉約を令する。名主・庄屋ら請書を提出する(同前)。

3月11日、若殿婚儀ととのい、御祝儀として十町名主より金子700疋・扇子1箱献上する(同前)。

3月15日、藩公初老の賀につき、山王社及び宝城寺で祈祷(14日～16日)、今朝、代参。この日、十町休日として参詣(同前)。

6月18日、豊岡藩が八鹿村・吉左衛門から20貫目借用(同前)。

閏8月3日、大風雨。4日に至り大洪水、各戸浸水。1丈9尺5寸増水。宵田町口橋流出。鍛冶屋町東側北の端の1軒流れる。5日朝、水引く(同前)。

8月22日、出水。1丈4尺、和久田堰止め。町方より加勢の人数出る(同前)。

9月3日、被災家族へ恵み米を下す(8戸)(同前)。

9月22日、小田井町・大黒屋伊兵衛が新規150石の酒造を願い出る。酒造仲間反対(同前)。

10月19日、不作につき豊岡藩は年貢先納銀の元利支払いを来春まで延期(同前)。

11月28日、子供の驚足の遊びを禁止(同前)。

12月8日、銀札払底につき札場切手通用の触れ出る(同前)。

12月19日、竹屋町・尾場瀬屋善兵衛が煙草屋株を許される(冥加銀20匁を毎年上納)。

年 表

1817	"	14	<p>3月晦日、久保町・永井町で大火。67軒焼ける。被災者は豊岡藩から恵み米及び救い銀を受ける（同前）。</p> <p>4月、豊岡藩は借財574貫匁の藩財政事情を町方名主層に示して、百四拾人講を命じる（邨尾家文書）。</p> <p>12月28日、江戸藩邸類焼。若殿御殿・西北通長屋・内長屋7棟・土蔵2ヶ所焼失。御殿と表御門は残る（鳥井）。</p>
1818	"	15	<p>1月14日、江戸藩邸類焼につき、冥加銀500両を内示（同前）。</p> <p>3月28日、九日市中・下ノ町で27軒を焼く（由利）。</p> <p>4月15日、一日市村で出火（舟木）。</p> <p>7月9日、江戸西藩邸普請（同前）。</p>
文政	元		<p>11月、駄坂村年貢米を積載の上ノ郷村・弥左衛門が、川船を豊岡町船主たちに差留められ、久美浜代官所に豊岡藩への掛け合いを願う（岡家文書）。</p>
1819	"	2	<p>2月14日、坂本弥三左衛門が豊岡藩家老職となる。知行高300石（鳥井）。</p> <p>11月、豊岡町内の豆腐の規格を定める（同前）。</p> <p>12月、出石切手札（不換紙幣）の通用開始。この年、出石藩産物会所が始まる（宿南保・出石藩）。</p>
1820	"	3	<p>5月、上ノ郷村・弥左衛門が円山川通船につき、再び豊岡町船持ちの者の妨害差し止めを久美浜代官所に嘆願（岡家文書）。</p>
1821	"	4	<p>10月9日、豊岡藩が、領内での他領の銀札の通用を停止させる（舟木）。</p>
1822	"	5	<p>1月29日、豊岡藩は骨柳問屋に八鹿・油屋喜右衛門と九日市上ノ町・坪屋源左衛門を指定、上方筋へ直売りを禁じる（鳥井）。</p> <p>2月8日、尾崎村（野上）大火、11軒焼失。円福寺も焼亡。町方十町より火消し人足を1町5人ずつ出す（同前）。</p> <p>2月12日、西本願寺門主・本如上人が湯島へ入湯につき、出石・福成寺、豊岡・光行寺を経て舟で下る。信徒ら供奉する（同前・由利）。</p> <p>4月17日、豊岡藩が骨柳編み方・縁かけ・簾引きなどの技術の公開を禁じる（鳥井）。</p> <p>7月5日、豊岡藩が年貢先納銀の利息支払いを3ヶ年間停止（同前）。</p> <p>10月19日、豊岡藩が札場再建のため、久美浜・稲葉市郎右衛門に元方を依頼するも断われ、元方後見を依頼（同前）。</p> <p>11月17日、立野・梶原・庄境・百合地・河谷の村役人が豊岡藩に先納銀の利息の支払いを要求し、百合地村・養福寺に参会し、手鎖・追込めなどの処罰を受ける。先納銀利息を要求する動き</p>

			<p>は二方郡の領内にもあり、19日に勘定方・古嶋又平、小頭・大谷由右衛門ら二方郡に出立（同前）。</p> <p>12月2日、利息支払いを要求した永井町・戸牧・福田・宮島・一日市各村の者たちが豊岡藩からお叱りをうける。3日、豊岡藩は先納銀利息として、銀765匁余を支出。高1石につき札1匁8分8厘8毛の割り（同前）。</p> <p>12月、文政元年以来の争論のあった円山川通船について、豊岡町内船主と気多郡船主との間に和解成立し、運賃を取決める（岡家文書）。</p> <p>12月12日～13日、宮津藩で領民強訴。56軒余を襲う（鳥井）。</p> <p>12月15日、出石町に魚問屋設立。豊岡からの魚行商差し止めとなる（同前）。</p> <p>春、津居山漁民、漁網の仕入れにつき、豊岡商人と対立生じる。</p>
1823	〃	6	<p>4月、出石裏町から出火。鉄砲町・川原町全部と田結庄町の一部、269軒を焼く（同前）。</p> <p>5月～6月11日、町方で疱瘡流行（由利）。</p> <p>7月、豊岡町民が灌漑用と称して円山川に堰をつくる。津居山の漁民・出石領民ともに困惑、ついに出石藩は行商禁止を解き、豊岡藩と和解（鳥井）。</p> <p>12月5日、豊岡藩の産物会所店開き。当分、宵田町・鍋屋三左衛門宅で（同前）。</p> <p>12月23日、豊岡藩が柳他所売りを許す（同前）。</p> <p>12月26日、豊岡藩の江戸藩邸・屋敷・御殿・長屋まで類焼（同前）。</p>
1824	〃	7	<p>1月28日、豊岡藩は江戸藩邸類焼について用銀を命じる。在方は高掛け・家数割り。高1石に6匁余り。町方は間口割り。城崎郡領内から類焼見舞に6貫目上納（同前）。</p> <p>2月～3月、豊岡地方にハシカ流行。</p> <p>5月、出石藩主・政美死去により弟・道之助久利の養子認可をまって7月に死去を届出る。</p> <p>閏8月3日～4日、豊岡藩で雇い足軽の鉄砲訓練（同前）。</p> <p>10月5日、豊岡藩で銀札払底について5厘切手を発行。15日、古金銀引替え（同前）。</p> <p>10月19日、豊岡藩の郭内表門焼失（同前）。</p>
1825	〃	8	<p>12月24日、豊岡藩が町・在に300貫の借上げを命じる（同前）。</p> <p>2月19日、豊岡領内で5ヶ年間年貢・1万6000俵の定免を申渡す（同前）。</p>

			<p>5月27日、九日市・西光寺に遊行上人到着。出家28人・中間衆11人（由利）。</p> <p>7月29日、夕刻から豊岡町内で騒動おこる。群集、産物会所をはじめ富商30軒を襲い、宵田門前に集まり強訴。藩士が発砲して、領民2人を殺傷（鳥井・由利ほか）。</p> <p>8月4日、町方騒動の吟味開始。11月6日まで逮捕者続く。</p> <p>8月12日、豊岡藩、岡登父子の格禄取上げ、勝田岡之丞を奏者格とし、郡奉行・町奉行・寺社奉行らを物頭組預けとするなどの人事刷新を行なう（鳥井）。</p> <p>8月15日、大出水。増水1丈2尺。田畑残らず冠水。</p> <p>12月、飢饉につき赤石村・大谷村が夫食用を久美浜代官に願ひ出る（峠家・田中家文書）。</p>
1826	〃	9	<p>正月、気比村が貯蔵もみ9石2斗余を借用して、窮民91人に支給（気比村文書）。</p> <p>3月、大谷村も貯蔵もみを借用して飯米に供す（田中家文書）。</p> <p>3月7日～13日、小田井神社二千年祭の神事を挙行。神輿が佐野村に一夜逗留（鳥井ほか）。</p> <p>4月12日、豊岡藩が札場改組。町方140人を呼び出し^{しめよだ}縮札（旧札を棚上げすること）を命じる。13日は在方を呼び出す（鳥井）。</p> <p>9月9日、百合地村の早生稲不作につき、年貢減額を嘆願（百合地・斉藤家文書）。</p> <p>9月28日、縮札のため地札なく出石札のみ通用。物価上昇（鳥井）。</p> <p>10月12日、銀札払底につき銭札1匁札および札場切手（5分）の不換紙幣を発行（同前）。</p>
1827	〃	10	<p>6月、上ノ郷村・弥左衛門が但馬川筋通船について豊岡藩への交渉を久美浜代官所に出訴（岡家文書）。</p> <p>7月10日、糸問屋を新たに産物会所から分離、小田井町・桶屋、新屋敷・紙屋に委託（鳥井）。</p> <p>11月、中村直右衛門が出石藩に対する6貫目の債権回復のため江戸表への出訴の仲介を久美浜代官所へ願ひ出る（福成寺・中村家文書）。</p> <p>この年、銀相場暴騰。歳末も人出少なく銀払底で豊岡商人歎息（由利）。</p>
1828	〃	11	<p>1月20日、豊岡藩、産物会所をもって札場にあてる（鳥井）。</p> <p>1月27日、町・在の縮札人別ならびに札場歩持ちの人別280人呼び出し、6朱の利息を4朱に下げること命じる（同前）。</p>

			<p>4月26日、豊岡藩が領内に金300両の借上げを命じる（同前）。</p> <p>5月14日、豊岡藩は札幌の運用に行きづまり、関係役人を処罰（札幌変義）。藩士・堀四郎太夫ら5人に差控え、町方の由利九十郎・福井勇三郎の名主役・苗字帯刀取上げなど、15人に謹慎を命じる（同前）。</p> <p>5月、豊岡銀札不融通のために、流通の掛け合いを求めて、城崎郡六方組・大浜下組・鎌田組・大浜上組・森組・奈佐組の惣代庄屋が久美浜代官所に嘆願書を提出（三宅家文書）。</p> <p>7月9日、豊岡藩は銀札不融通のために2分入り正銀通用新切手札（錢切手）を申しつける（鳥井）。</p> <p>8月、小島村・瀬戸村が6月中旬のいもち・かいどう虫付き。</p> <p>8月の大風雨のために破免方を久美浜代官所に嘆願（小島村文書）。</p> <p>8月1日、1匁以下の古札の回収を命じる。ただし、金1両につき錢325匁（鳥井）。</p> <p>この年、豊岡十町から宝城寺に燈籠81基寄進。文政13年にも64基（佐川家文書）。</p>
1829	〃	12	<p>2月26日、先年12月に丹後・袖浦に漂着の朝鮮人14人が帰国のため豊岡を通過。警固の幕府役人ら光行寺で昼食。町内名主ら出迎え（鳥井）。</p> <p>7月18日、大洪水。円山川筋1丈8尺余の出水。豊岡藩、文化5年来の不作。</p> <p>9月27日・28日、郡奉行・勝田佐治右衛門、村々を検分（同前）。</p>
1830	〃	13	<p>12月27日、午後7時、気比村大火。全焼132戸（気比村文書）。</p> <p>3月21日、宵田町・栃江屋善右衛門店にお札降る。お蔭参り流行（鳥井・由利）。</p>
1830	天保	元	<p>11月、高屋村・本井仁左衛門が伊万里系磁器窯を創始する。窯号・布金山（本井家文書）。</p> <p>12月3日、朝鮮人2人が豊岡町を通過して出石藩役所に向かう。光行寺で昼食。同勢、人足とも100人（鳥井・由利）。</p> <p>12月14日、出石郡下郷30ヶ村の百姓が年貢減額を要求して出石川原町口まで押寄せる（神美村誌）。この年、豊岡札幌規定を改定（浜坂町史）。</p>
1831	〃	2	<p>正月、世間困窮。宮修理のため氏子中に百人講願出る（女代社文書）。</p> <p>2月2日、養源寺四百人講（由利）。2月5日、豊岡藩主（高有）隠居を表明、若殿家督相続のため両郡へ高掛121貫文、町方へ間口割8貫文の用銀を命じる（舟木・鳥井）。</p>

1832	"	3	<p>3月21日～25日、佐野村・雷天神33年目の開帳（信部家文書）。</p> <p>6月6日、豊岡藩は百姓・町人が大きな墓所を築き、院号居士をつけることを停止（舟木）。</p> <p>3月7日、旱天のため40日間、川を掘削して、九日市田圃に水車で水取りを行なう（女代社文書）。</p> <p>7月1日、豊岡藩は当年から5ヶ年間、年貢を定免（一定税率）とし、年1万4000俵の納入を命じる（鳥井）。</p> <p>8月9日、豊岡藩は御料所（生野・久美浜兩代官所）からの借用銀を返済のため、御料所内での三百人講を企画。町名主4人に世話方を依頼（同前）。</p> <p>10月19日、豊岡藩は産物会所を一時取扱い停止とする（同前）。</p> <p>11月1日、豊岡藩の札場受人（元方）が宮津・大津屋山本善次に代わる（同前）。</p>
1833	"	4	<p>閏11月19日、江戸屋敷が土蔵までも類焼。領中から7ヶ年間、献金・助力を願い出る（舟木）。</p> <p>12月26日、日撫村渡船に来年から賃金を許す（鳥井）。</p> <p>1月24日、豊岡町内で手嶋堵庵先生道話（鳥井）。</p> <p>2月、豊岡藩庁門内に仮に学館を創設、後に藩学・稽古堂となる（舟木）。</p> <p>3月5日、豊岡藩、1口100両の頼母子講発起。</p> <p>3月21日、丑の刻に立野村大火。32軒焼失する（鳥井）。</p> <p>3月24日、頼母子12口半（1250両）でき、領中の在・町へ月1分2厘の利息で貸付け（同前）。</p> <p>7月25日、瀬戸村と近村に強訴の廻文廻る。湯島・瀬戸屋入牢（観正寺文書）。</p>
1834	"	5	<p>この年、大坂の心学者・原田道立を招き、領中の教諭仰付け。</p> <p>この年、不作のため富者を勧諭して賑米を出す。合わせて米850俵余。予備倉を建て、固寧倉と呼ぶ（舟木）。</p> <p>前年凶作のため、米値段125匁に上がる（由利）。</p> <p>3月6日、産物会所再編、由利五郎右衛門空宅に開く（鳥井）。</p> <p>3月6日、町方8人が100俵施米（同前）。6月26日、町方有志が施米（同前）。</p>
1835	"	6	<p>9月15日、久美浜村へ田結・気比・小島各村よりさつまいも100俵を津出し（港村誌）。</p> <p>5月22日、洪水。1丈6尺出水。和久田土手切れる。六方田圃の稲苗くさる。7月7日にも大風雨。出水1丈4尺（鳥井）。</p> <p>9月25日、奈佐谷・大谷村大火。26軒焼亡（同前）。</p>

- 9月29日、江州・猪飼敬所を招き藩学開校（舟木）。
 12月9日、出石藩が仙石騒動で減知、5万8000石より2万8000石を削られ3万石となる。
- 1836 “ 7 6月15日、雨天がち凶作。米高値（鳥井）。
 8月13日、大雨。出水1丈5尺（同前）。
 8月、飢饉のため固寧倉を開き、富者を勧諭して5000人余に賑米を出す。病者には薬餌、耕者には魚肉を与える。費用1500兩余（豊岡誌）。
 11月末、豊岡町内で困窮者に施粥（鳥井）。
 12月5日、豊岡藩が酒造停止を触れる（同前）。
 12月10日、豊岡・産物会所元方に江州・松居吉右衛門が決まる（同前）。
- 1837 “ 8 前年につづき大凶作。気比村では去年に引続き悪風邪と飢えとに死ぬ者74人という（観正寺文書）。
 悪作で夜盜横行し有徳者ら粥をたき出す（善念寺過去帳）。
 2月～8月、豊岡藩が立野村お宮・上陰村・九日市中ノ町お宮・二方郡内4ヶ所で施粥（岡家文書）。
 去秋から大飢饉で物価上がり、米1石が136匁5分となる（鳥井）。
 4月、平尾玄通が平尾家家訓を作る。
 凶作に際し難渋者へ米を施与した者へ久美浜代官・和田主馬が褒美を申渡す（久美浜町・太刀宮文書）。
 九日市中ノ町ほか9軒焼ける（女代社文書）。
 7月22日、札幌借銀未納者を罰する（鳥井）。
 8月15日、高屋焼窯元・本井家火災。家屋・製品など、すべてを焼く（本井家文書）。
- 1838 “ 9 豊岡藩主・京極高行が伝奏役（院使馳走役）をつとめる。費用4300兩余（舟木）。
 4月20日、幕府巡見使（山本七郎左衛門・三宅三郎・市岡内記）の一行が豊岡領内通行。昼休み本陣は丹後屋庄三郎・二方屋又右衛門・鍋屋良右衛門宅（鳥井ほか）。
 8月3日、足軽・源蔵が藩倉に入り金員を盗む。一日市縄手で処刑（鳥井）。
 この年、堀川架橋。算盤橋と呼ぶ（豊岡誌）。
 大保恵堰組入用割り（札61匁4分）を播州に返銀（岡家文書）。
- 1839 “ 10 4月3日、豊岡町内で海防献金1770兩納付。30兩は4ヶ年の延納を願う（由利）。
 6月15日、江州・松居吉右衛門が産物会所元方をさらに5ヶ年

			引き受ける（鳥井）。
			12月、豊岡藩が紺屋仲間11人に紺屋株を申付ける（長柄家文書）。
1840	"	11	1月10日、乞食の焚火から、山王社拝殿焼失（鳥井）。 この年、豊岡藩が天保2年の「御制度」を改め、再び改革の法制を布達（舟木）。
			この年、高屋焼は経営不振におち入り、廃窯に向かう。
1841	"	12	2月3日、豊岡藩で家中甲冑改めを行なう（舟木）。 4月29日、札幌新札摺り立て（鳥井）。 5月7日、豊岡産物会所に糸会所を編入（同前）。 5月、荒地起き返しなどを調査して課税するため、久美浜代官手代の脇屋次郎・嶋津清助が城崎郡中一円の庄屋らを調査（瀬戸村文書）。
			8月26日、前の豊岡藩主・京極高有（瑞泉院）が江戸で死去。
			11月、上・下両鉢山村で囲土手始まる（田井）。
1842	"	13	5月7日、瀬戸村大火。76軒焼失（港村誌）。 8月4日、豊岡藩主（京極高行）大坂加番役を勤め、江戸に向かう（鳥井）。
			この年、海岸防備の幕命によって豊岡藩も大砲・武器類を整える（舟木）。
1843	"	14	4月22日、豊岡藩の舟木・谷口・和田垣・津田・四方ら丹後海岸検分（鳥井）。 5月21日、久美浜代官支配下の美含郡・轟村庄屋平四郎ら4人が海岸防備のため、1000両の借用を豊岡町方に申し入れる（同前）。 8月11日、生野代官支配下の年貢石代納は、豊岡御蔵の石代58匁に4割5分安。大豆は豊岡納値段と決定（同前）。 9月3日、海岸防備のため豊岡町内から19貫余を献金（同前）。 10月18日、札幌元方交代。大津屋・山本善次が退役、久美浜・稲葉氏後見、福井祐三郎出役（同前）。
1844	"	15	この年、豊岡藩が久美浜代官支配下の丹後国湊宮村白浜に大砲を据え砲術訓練。以後、年々出張して訓練（舟木）。 9月28日、豊岡藩士の人数勢揃え。興国寺で甲冑に着替え瑞泰寺に参詣（同前）。
1845	弘化	2	2月27日、豊岡藩の海岸防備費用のため、200両掛け十人講を命じる。生野・足立氏は大蔵講と交換条件で承諾（鳥井）。 4月2日、生野で奉納能狂言会。豊岡・出石から鳥井忠左衛門ら20人ばかり出演（同前）。

			5月6日、豊岡藩が兵学稽古のために舟木直寅・岡右内を奥州・中村へ差遣（舟木）。
			6月14日、豊岡藩が町方へも150石の貯穀を命じる（鳥井）。
			6月20日、芝村（日高町）70軒中、58軒焼失（同前）。
1846	〃	3	11月19日、イギリス国衆来朝。香住村よりも人足14人を出す。 正月、城崎・二方郡77ヶ村から石代値段の引下げ方を久美浜代官所に再願。豊岡・上中下三段米相場の4割5分安で銀納を願う（五荘村史）。
			春、豊岡の松本速水が適塾に入門。
			4月20日、森津村で20軒焼失（鳥井）。
			閏5月17日、豊岡藩が藩主の家督相続と江戸藩邸普請のために領内に2500両の献金を命じる（同前）。
1847	〃	4	10月29日、豊岡藩蔵納入石代を治定（4割5分引き）。
			7月14日、1丈5尺2寸増水（由利）。
			8月5日、生野・久美浜両代官が湯島で会合（鳥井）。
			8月10日、和久田堤防普請。11日に新土手の1尺下げを命じる。9月8日完成（同前）。
			9月29日、京極高行（成義院）が江戸で卒す。年54。
			この年、凶作のために香住村が積立て米67石余り・種粃8石8斗を拝借（田井）。
1848	〃	5	12月2日、京極高厚が豊岡藩主となる。
			1月10日、丹後・湊村で126軒焼失。また1月18日に30軒余焼失（鳥井）。
			2月18日、豊岡藩・舟木外記直温（共定院）死去。
			3月5日、京極高厚の豊岡藩主就任祝いに献金した者106人に酒6斗・鳥目3貫目下さる（同前）。
			3月7日、豊岡藩が領内の難波人に施米（同前）。
1849	嘉永	2	4月、豊岡藩が二方郡に異国船対策を発令。
			8月、京極高厚が駿府城加番役をつとめる。町・在のもの献金（岡家文書）。
1850	〃	3	2月2日、江戸の豊岡藩邸類焼。
			4月、久美浜代官・増田作右衛門の手代・大羽金蔵が丹後・但馬の海岸を視察（浜坂町史）。
			7月29日～8月5日、長雨で諸作物稔らず（気比村文書）。
			9月2日、風雨。3日から洪水。豊岡流れ家20軒。死人8人。増水2丈（約7メートル）を越す。「前代未聞」という（三宅）。
			10月、久美浜代官支配下の城崎郡中で夫食として越前米2000俵を買い入れる。代銀203貫700匁（1591両）（瀬戸村文書）。

1851	"	4	<p>10月、津居山村獵師の竹野村での漁道具引揚げ争い発生（港村誌）。</p> <p>12月、大坂・鈴木町御役所へ久美浜代官支配下の二方郡27ヶ村・城崎郡11ヶ村が銀子拝借願い（三宅）。</p> <p>2月7日、豊岡藩・舟木老之助（直寅）が但馬海岸の検分および昨秋の水害状況視察のため、二方地方巡村。2月23日に帰着（舟木）。</p> <p>4月、瀬戸村が難波人に炊き出し（港村誌）。</p> <p>7月23日、京極高厚が大坂加番役につき豊岡発駕。29日着坂。</p> <p>8月4日に入城（舟木）。</p> <p>10月25日、豊岡藩士が大坂で藤沢東畝を招いて受講（同前）。</p> <p>11月、養源寺総門再建の件で、年行司7人協議（由利）。</p>
1852	"	5	<p>12月7日、出石藩、領地替えて、高2522石増高となる（田井）。</p> <p>2月17日、豊岡藩が札幌再建のため、丹後・山本善次、小西林蔵へ600両の出資を依頼。町・在も含め4000両で札幌の再建を行なう（鳥井）。</p> <p>2月、丹後浜詰村・権三郎、五助、津居山・六四郎らが豊岡町の魚問屋4人の買ったたき防止につき久美浜代官所・豊岡藩役所に出訴（港村誌）。</p> <p>5月5日、豊岡藩・舟木老之助が大坂で年寄役を拝命。拝領高200石（鳥井）。</p> <p>8月7日、京極高厚が大坂加番役交代。8月20日、江戸着府（舟木）。</p>
1853	"	6	<p>9月22日、響灘が山王山で3日間の角力興行（鳥井）。</p> <p>5月15日～17日、早ばつ。豊岡藩奉行所が二夜三日の雨乞い祭を山王・小田井両社に仰せつける（鳥井）。</p> <p>5月20日、早ばつ。佐野村で反収2、3斗（信部家文書）。</p> <p>6月12日～14日、豊岡藩の舟木老之助が浦賀を視察（舟木）。</p> <p>7月5日、早ばつで諸川水減じ、川筋に油類・洗物停止（鳥井）。</p>
1854	安政	元	<p>2月4日、豊岡藩が海岸防禦のための金高1165両の献金を62人に割当てる（同前）。</p> <p>3月25日、豊岡藩が家中屋敷内の調練場を拡張（同前）。</p> <p>6月13日、昼八ツ時地震。14日夜九ツ時大地震。豊岡町内で家多く倒れる。今森で3軒大破。豊岡藩は被災者に銭を与える。</p> <p>11月5日、辰巳三方にドンドンと地鳴り、大坂大津波（田井）。</p> <p>12月、出石藩が7文・5文・3文切手を発行（同前）。</p>
1855	"	2	<p>2月6日～19日、京極高厚が家臣・人足100余人を従えて二方郡海岸を検分（由利）。</p>

			8月11日、出石藩主・仙石久利は美含郡の領中を検分。16日、一日市大庄屋・佐伯孫左衛門宅で昼食後、帰城。人足67人中、香住村から11人（田井）。
			12月5日、大筒・小銃鑄造のために寺院の釣鐘を追々と引上げるよう豊岡藩庁から達し（鳥井）。
1856	〃	3	6月10日、暴風雨。洪水。米価200匁ぐらいに上がる。大豆は前代未聞の値段となる（同前）。
			10月5日、京極藩大調練。
1857	〃	4	3月、香住村・広右衛門女房が双子出生により10才となるまで年に米4斗ずつ下賜される旨、出石藩より達し（田井）。
			5月11日、吉井村で8軒・土蔵2ヶ所焼失（鳥井）。
			7月23日～24日、大風雨。豊岡御蔵値段9匁を引上げ90匁となる（同前）。
1858	〃	5	8月9日、豊岡地方にもコレラ流行。8月17日、京極高厚が山王・小田井両社に参詣し、病除祈願。各神社にも祈祷の達し。
			8月17日、興国寺方丈が町内を廻って病除け祈祷（同前）。
			8月19日、疫病流行で豊岡藩は困窮者に救い米を支給（同前）。
			12月4日、幕府役人・堀織部正、駒井左京ら122人が軍艦で北海の防備を巡視。津居山港に上陸して湯島に宿泊。5日、豊岡に入り二方郡海岸の詳図・円山川沿岸の地図を徴見（豊岡誌）。
1859	〃	6	2月12日、豊岡藩が難渋人に救い米を支給。極難人1人に4升。難渋人1人に3升（鳥井）。
1860	万延	元	3月16日、出石藩主が三開山へ登山。供するもの47人。（銀）2両・茶料15匁・薪料30匁下さる（田井）。
			4月17日、下鉢山囲土手完成（長さ186間・敷6間・留2間・高平均1間2分）。組合普請で香住村は人足333人を出す（同前）。
			6月15日、四ツ時、香住村17軒焼失（同前）。
			この年、春から雨天つづきで不作。米は銀180匁・大豆は銀275匁。11月、出石領に救い銀35貫450匁を支給（同前）。
1861	文久	元	10月、田畑大上作。稲10束ぐらいで1斗。冥加として香住村など周辺村々が都合20俵献上（同前）。
			12月6日、吉井村の岡本文鼎・岡本文吾が適塾へ入門（田中家文書）。
			このころ、豊岡藩は貯穀手当て・領民の生活向上のため恵義館を設け、銀子の貸付け開始（鳥井）。
1862	〃	2	5月23日、豊岡藩が11寸半砲を津居山に、1貫砲を瀬戸・氣比に備え、和田垣大記が監督に当たる（豊岡誌）。

1863	〃 3	<p>4月、幕命で出石藩主・仙石久利が京都・下鴨口から大原郷辺を警備。</p> <p>4月9日、幕府が大名妻子の江戸内在住を解き、出石藩主奥方は出石に帰館。諸家も同様（田井）。</p> <p>6月、幕命で豊岡藩が、京都で足利尊氏の木像を斬った伊予の三輪田綱一郎を監禁（豊岡誌）。</p> <p>8月19日、京都の風雲急で、豊岡藩・勝田左次兵衛以下56人（ほかに雇い足軽100人・人足200人）は大砲3挺をもって出発し、久美浜を警衛。宮津・峰山・出石各藩からも出陣（鳥井・久美浜町誌）。</p> <p>10月12日～14日、沢宣嘉・平野国臣ら挙兵し、生野の変起こる。豊岡藩よりも藩士・坂本弥三左衛門繰出し、町内大混雑。豊岡藩士・岩崎豊太郎、蔭山要八ら養父郡網場村（八鹿町）で、平野国臣および鳥取藩士・横田呉次郎を逮捕（生野銀山一挙始末）。平野は豊岡藩勘定方古嶋良平家に監禁される（豊岡誌）。瀬戸村・大江甚助は同村・宮代与左衛門らと謀り、同志を募って密かに生野の志士を援ける。後、幕吏に捕われ禁錮（瀬戸・宮代家文書）。</p> <p>11月、江戸本丸焼失。12月15日、香住村から25両2分3朱猷金（田井）。</p>
1864	元治 元	<p>3月、京極高厚上京し、孝明天皇に拝謁（豊岡誌）。</p> <p>4月、出石藩は領内に金6000両の御用金を命じる。</p> <p>4月、宵田町の医師・安藤謙叔が種痘術を豊岡藩に願い出て許される（石田松蔵家文書）。</p> <p>6月26日、豊岡藩は、京口・六地藏・一日市に番所を置き、厳しく旅行者を監視。</p> <p>7月3日、幕命で豊岡藩兵上坂。西宮に駐留して、長州軍の亡命に備える。8月、帰国の藩兵に米222石を支給。7月4日、出石藩が市場村に見張り番をおく（田井）。</p> <p>7月19日、京都蛤御門の変起こる。長州軍敗れる。</p> <p>8月26日、朝来郡竹田村で強訴。豊岡藩からも出兵、偵察（舟木）。</p>
1865	慶応 元	<p>正月、豊岡藩は京口・出町の番所を撤廃。</p> <p>4月27日、豊岡藩庁は佐川幸四郎・南条又右衛門・堀屋源之助・現銀屋総右衛門を産物会所の肝いりとする（鳥井）。</p> <p>閏5月16日、出石藩士が上京、京都警固にあたる。</p> <p>5月26日、幕命で豊岡藩・下村彦総らが久美浜の警備にあたる（豊岡誌）。</p>

1866	〃	2	<p>11月、生野代官支配下の村々へ長州向け人足差出しを命じる。村高1000石につき5人ずつ。</p> <p>2月2日、豊岡藩は諸職人手間料値上げを許す（鳥井）。</p> <p>2月6日、豊岡藩は骨柳師の株仲間結成を許す（同前）。</p> <p>3月3日、気多郡の養蚕家が、生糸運上銀は桑役と重複するとして赦免を生野代官に願う（加陽・水嶋家文書）。</p> <p>4月19日、昼八ツ時に雪降り、麻畑全滅。麦5分作（田井）。</p> <p>5月10日、芸州広島行き人足を赤石・下鶴井・岩井・目坂・岩熊各村から1人ずつ、久美浜代官所へ差し出す（赤石・阪井家文書）。</p> <p>6月6日、豊岡藩士・久保田精一が町方を説いて難波人に施行（豊岡誌）。</p>
1867	〃	3	<p>6月26日、気多郡西ノ気谷に百姓一揆起こる（日高町史）。28日豊岡藩、木下八郎太夫・東郷弥太郎らに命じて九日市村に屯して警備に当たらせる（豊岡誌・鳥井）。</p> <p>8月4日、豊岡藩が町民にも農兵稽古を命じる。農兵総代に壺屋由三郎・丹後屋富三郎を任命（鳥井）。</p> <p>9月、生野・久美浜兩代官所支配下の村々が、年貢銀納値段は豊岡蔵前相場の4割2分8厘に定例の増銀を加えること（安石代）を代官所に交渉、承諾させた上、請書を提出する（三宅）。</p> <p>11月、久美浜代官支配の丹後・但馬村々が兵賦金を上納（久美浜・太刀宮文書）。</p>
1868	〃	4	<p>正月、出石藩は領内に1万両、そのほか8000両用達を命じる。平尾本家800両、香住村・宇野家100両用立てる（田井）。</p> <p>正月27日～28日、山陰鎮撫使・西園寺公望が久美浜から豊岡町に到着。本陣は由利三左衛門家。豊岡藩老・堀四郎右衛門、勝田左兵衛を引見し、28日に鳥取へ出発（鳥井）。</p> <p>2月4日、京極高厚、家臣を率いて桂御所を警衛（豊岡誌）。</p> <p>2月11日、大神宮御札が久保町の左官・勘三郎宅に降り大踊り始まる。豊岡藩は20日に禁令を出すはずが止まず、郭内武家宅にも御札が降り、踊りがつづく（鳥井）。</p>

補 注

略 称 この年表の出典として用いた諸資料中、引用頻度の高いものは、次のように略称を用いた。

- ① 諸家譜 『寛政重修諸家譜』
- ② 舟 木 『舟木旧記』ほか舟木（直温）家文書（元・郭内）
- ③ 鳥 井 『公私之日記』ほか鳥井（山三郎）家文書（元・久保町）
- ④ 由 利 『公私之日記』ほか由利（九十郎）家文書（元・中町）
- ⑤ 田 井 『家事要録』『諸色覚日記』ほか田井（惣右衛門）家文書（香住）
- ⑥ 三 宅 三宅（治左衛門）家文書（宮井）

図・表・写真一覧

〈口 絵〉

- 元禄15年豊岡城下絵図〈カラー〉(京町・京極高光氏蔵)
 気比出土・銅鐸(国立東京博物館蔵)
 森尾出土・□始元年鏡、土馬(京都大学文学部蔵)
 但馬国司解文(正倉院宝物)
 薬琳寺瓦(三宅・慈等寺および中島神社蔵)
 文常寺聖観音(鎌田)
 錫杖頭・宝珠杵(但馬文教府蔵)
 東楽寺四天王(清冷寺)
 光行寺本尊胎内文書(元町)
 京極高行公絵像(京町・京極高光氏蔵)
 元・興国寺梵鐘と紀年銘(香住町・長福寺)
 高屋焼(京町・高極高光氏蔵)
 骨柳間屋規定書(かばん会館蔵)

〈巻末折り込み〉

- (表) 近世所領関係変遷表(豊岡市域内)
 (図) 天明7年但馬国絵図(豊岡市域関係分)

〈見開き〉

- 表 江戸時代の豊岡郭内・宵田門付近
 裏 同時代の豊岡町・京口渡し場付近
 (其雲画、中央町・赤江慶三氏蔵)

図

番号	図	ページ	
1	近畿地方の地質構造図。日本列島の大地質構造区分と兵庫県……	6	5 豊岡盆地の地質縦断面図……………19
2	豊岡市域と周辺の地質図……………	8	6 豊岡盆地の微地形……………21
3	豊岡市域と周辺の地形区分……………	14	7 八社宮地区付近のくま畑……………23
4	円山川河口付近の地形……………	16	8 土淵付近の地籍図……………28
			9 大保恵堤と改修前の流路……………29
			10 旧河道と島畑の分布……………31

11 旧・田鶴野村の地籍図……………34	42 矢谷3号墳の下部遺構と棺…… 105
12 瀬戸・日和山の方角石図……………39	43 八鹿町池の内遺跡の軒丸瓦拓影 106
13 大陸と地続きの日本列島……………49	44 郡域別但馬国図…………… 112
14 但馬の縄文遺跡分布図……………54	45 旧・気多、出石、城崎郡境の変 遷と旧河道…………… 115
15 市域内の縄文・弥生遺跡……………56	46 区画整理前の豊岡町…………… 134
16 辻遺跡出土押型文土器拓影……………57	47 滝地区にみられる条里地割りの 傾き…………… 138
17 中谷貝塚の遺物……………59	48 上鉢山・倉見・長谷地区周辺の 坪並…………… 140
18 黒耀石の分布……………64	49 高屋地区にみられる坪並…………… ”
19 弥生時代の土器……………66	50 奈佐谷の条里地割りと古墳の分 布…………… 142
20 駄坂川原遺跡採集の打製石包丁 状遺物……………68	51 土淵・引野付近の条里地割りと 古墳の分布…………… 143
21 気比銅鐸出土の立地……………71	52 三宅薬琳寺跡出土鴟尾拓影…… 144
22 気比銅鐸をめぐる関係図……………72	53 豊岡市内の式内社所在地図…… 154
23 東奈良遺跡出土の銅鐸鑄型片拓 影…………… ”	54 法勝寺領雀岐庄和与中分参考図 199
24 気比3号銅鐸の文様……………74	55 三開山城概念図…………… 227
25 気比4号銅鐸の文様…………… ”	56 鶴城概念図…………… 247
26 市内出土の石剣……………77	57 宮井城概念図…………… 253
27 女代神社遺跡採集の銅鎖様遺物… ”	58 『主図合契記』中の豊岡城 …… 307
28 森尾古墳実測図2例……………83	59 小二見と玉石新田の位置関係… 339
29 森尾古墳(跡)現況図…………… ”	61 手ぐり網操業図…………… 439
30 森尾古墳出土の銅鏡拓影……………84	62 鯛延縄略図…………… ”
31 森尾古墳出土の□始元年銘鏡を めぐる関係図……………87	63 油絞りの図…………… 560
32 納屋ホーキ古墳群の箱式石棺と 壺棺……………89	64 旧・正福寺推定配置図…………… 749
33 和田山町の池田古墳測量図……………90	65 興国寺伽藍配置図…………… 773
34 ホーキ古墳実測図……………93	66 市内浄土真宗寺院壇家園と近世 石造遺物分布図…………… 805
35 納屋ホーキ古墳群の群在状況…… ”	67 蝶夢像…………… 854
36 引野の大師山古墳群群集状態……99	68 観正寺庭園平面図…………… 935
37 風谷1号墳石室平面図…………… 100	69 三木邸跡庭園平面図…………… 937
38 田結の風谷古墳群の立地…………… ”	70 青山邸庭園平面図…………… 938
39 妙楽寺見手山古墳外形実測図… 102	
40 立石105号墳外形模式図…………… ”	
41 矢谷古墳群の群集状況…………… 104	

表

番号	表	ページ
1	但馬地域の層序表	10
2	天保7年(1836)の天候表	37
3	嘉永3年(1850)の天候表	38
4	月別平年値表	41
5	天気日数	〃
6	気象要素の極および順位表	42
7	豊岡地方季節(1)	〃
8	豊岡地方季節(2)	〃
9	豊岡地方季節(3)	〃
10	豊岡地方季節(4)	43
11	豊岡地方階級別日数	〃
12	但馬地方主要古墳群表	110
13	郡名・郷名・村落名対比表	116
14	但馬の古代部民および屯倉、 所在表	123
15	但馬国司から東大寺に進上した 奴婢	127
16	古仏奉祀寺院表	146
17	古代寺院表	〃
18	寺院名のつく小字名	148
19	市域内の兵主神社	158
20	雅成親王略系図	175
21	御家人配置表	187
22	国御家人配置表	193
23	市域内の太田氏所領表	198
24	市域内に見られた「保」と「村」	210
25	長講堂の所領よりの月別注文表	212
26	垣屋氏系図	230
27	山名氏略系図	241
28	市内・主要中世石造物表	258
29	『熊野那智大社文書』に見える 但馬国の旦那一覽	273
30	雷神社棟札	283
31	杉原氏時代の豊岡藩内寺社領免 許地	318
32	市内・旧郷庄別近世村落表	327
33	豊岡市及び城崎町内、時代別村 高表	332
34	新田開発石高表	344
35	但馬国領知郷村高辻帳	345
36	京極家略系図(その1)	348
37	京極家略系図(その2)	349
38	「延宝二年」分限帳による豊岡 藩土族分類	355
39	豊岡藩土族団構成表	359
40	石東家系譜	361
41	舟木家系図	364
42	大石内蔵助良雄略系譜	375
43	豊岡藩領内(二方郡を除く)大 庄屋一覽表	382
44	祥雲寺村貢租率・石代変遷表	389
45	村別貢租率	390
46	豊岡新領分諸役運上	392
47	文政11年・津居山村小物成	〃
48	寛政7年・倉見村、長谷村小物 成	〃
49	田井家農事暦(天保2年)	400
50	田井家年中行事表	401
51	中谷村・六地藏村に見る田畑所 持状況の変遷	406
52	平尾家系図一覽表	409
53	平尾源太夫家土地集積状況一覽 表	413

54 正保5年2月『但馬城崎郡西老 万石山堺写』……………	419	81 天明2年、町・在の諸運上…………	638
55 江戸時代の漁船・漁具一覽…………	439	82 文化14年4月・豊岡藩借財表…………	654
56 川役・魚運上表……………	441	83 渡辺家『年々有物メ上覽』の内 容……………	663
57 名主一覽表……………	457	84 渡辺家取扱い米穀量……………	665
58 町人年中ごよみ……………	469	85 豊岡銀札相場の推移……………	668
59 文政2年閏4月・山王社勸進能 番組……………	483	86 打潰し被害者名対照表……………	676
60 近世豊岡における興行物一覽表…………	487	87 町村別処罰者数……………	683
61 近世・豊岡地方疫病一覽表…………	490	88 検挙者職業別構成……………	”
62 藩医一覽表……………	492	89 重罪者一覽……………	”
63 近世洪水一覽(豊岡地方)…………	506	90 粥米供出者一覽……………	712
64 文化14年3月火事被災軒数…………	509	91 市内廃転寺院……………	751
65 豊岡大火事一覽(江戸時代)…………	510	92 市内紀年墓碑調査表……………	756
66 京極家参勤交代帰国日程表(弘 化3年)……………	524	93 浄土真宗・徳証寺過去帳登載人 数表……………	757
67 巡見使来但の記録……………	525	94 市内寺院……………	760
68 巡見使行列立て人夫数(天明8 年)……………	526	95 浄土真宗・光行寺系市内各寺院 木仏等裏書年代表……………	765
69 船津屋の造船数(万延~慶応)…………	535	96 曹洞宗・養源寺系市内寺院への 世代開山入り年度表……………	768
70 慶応2年川舟運賃改定表……………	537	97 興国寺世代法系図……………	776
71 三国種の津居山港入津関係記録 (文政2年~7年)……………	538	98 興国寺世代・入退寺表……………	777
72 払米と米価一覽表……………	543	99 現・豊岡市内の江戸期戸数・ 人口……………	783
73 酒屋と銘柄一覽(文化6年以降)…………	549	100 中町名主・由利六左衛門家寺社 詣り表……………	797
74 利酒順位一覽表……………	550	101 市内近世石造遺物出現頻度表…………	801
75 酒値段表……………	554	102 市内主要名号石・万霊塔・題目 石など……………	802
76 大豆・豆腐値段表……………	557	103 市内六地藏表……………	807
77 油師の実働日数と種石数……………	561	104 道標……………	812
78 現存の三宅家製品表……………	583	105 近世遊行回来表……………	815
79 祥雲寺村の上知前後の年貢…………	621		
80 石代銀納値段表……………	632		

106 市内神社表……………	828	108 年度別青鷺書院入門者表……………	932
107 市域内の寺小屋一覧表……………	923		

写真

番号	写真	ページ
1	豊岡盆地の広がり……………	4
2	山陰型花崗岩の露頭……………	9
3	玄武洞……………	12
4	気比の竜ヶ鼻……………	15
5	津居山・瀬戸の古絵図(天保年間)……………	16
6	中谷貝塚付近の低位段丘……………	17
7	赤石地区北方の沼地……………	24
8	下加陽地区の旧円山川河道……………	26
9	百合地地区の旧円山川河道……………	〃
10	六方田圃と五条川……………	27
11	今森付近の地籍図……………	30
12	天明7年の『但馬国大絵図』……………	33
13	気象記号が書かれている日記……………	36
14	上から見た方角石……………	39
15	方角石……………	〃
16	霧の中の円山大橋……………	44
17	但馬とその周辺の尖頭器……………	51
18	辻遺跡の石鎌……………	52
19	辻遺跡の景観……………	57
20	長谷遺跡の縄文土器……………	〃
21	中谷貝塚の貝層……………	58
22	中谷貝塚の土器……………	59
23	大磯浜採集の土器……………	60
24	香住・荒原遺跡の遠望……………	〃
25	宮井遺跡の凹石……………	62
26	辻遺跡の石皿……………	〃
27	網野町浜詰遺跡の復元住居……………	〃
28	辻遺跡の石棒……………	63
29	大磯浜採集の靱土器片……………	67
30	駄坂川原遺跡の周辺……………	〃
31	香住町出土の石包丁……………	68
32	銅鐸発見地の遠景……………	69
33	八代川採集の河内系土器……………	75
34	中ノ郷と中谷出土の石斧……………	76
35	城崎町スクモ塚採集の磨製石斧……………	〃
36	八鹿町米里の円形周溝墓……………	78
37	田能遺跡の高床式倉庫……………	〃
38	空から見た妙楽寺木棺墓群……………	80
39	妙楽寺木棺墓……………	81
40	森尾古墳出土の銅鏡……………	84
41	和田山町城の山古墳主体部……………	85
42	高崎市蟹沢古墳出土の鏡……………	86
43	鎌田東2号墳の土器棺出土状況……………	89
44	出石町の長持形石棺の部分……………	91
45	茶臼山古墳の遠望……………	〃
46	空から見た森尾・北浦古墳群……………	94
47	北浦18号墳の埋葬施設……………	〃
48	七ツ塚箱式石棺おさえの石……………	96
49	空から見た正法寺七ツ塚古墳群……………	〃
50	北浦古墳遺存のヒノキ棺材……………	97
51	土の色の差異で確認した七ツ塚木棺のあと……………	〃
52	妙楽寺見手山古墳石室……………	98
53	日撫・正福寺谷の横穴墓群……………	103
54	矢谷3号墳の木棺……………	105
55	三宅小学校裏山出土蔵骨器……………	106

56 但馬国の郡郷名（部分）……………	108	84 雅成親王の供養塔……………	179
57 日高町国府地区の遠望……………	〃	85 日高町松岡の「ばば焼祭」………	181
58 城崎郡の名を記す平城京出土木筒……………	113	86 但馬国守護・安達親長差出しの経巻請取状……………	185
59 海神社（小島）……………	121	87 但馬太田文中の小田井社領・城崎庄・新田庄の記事……………	191
60 阿牟加神社（森尾）……………	124	88 空から見た鉢山地区……………	194
61 逃亡した奴婢の送還を報じる但馬国司牒……………	128	89 伊含浦（浜坂町居組）……………	195
62 奈佐谷宮井の二方の岡……………	130	90 下鶴井庄寄進状……………	196
63 但馬国正税帳（部分）……………	131	91 太田政頼から進美寺宛ての令旨伝達状……………	201
64 六方地域の条里（〃）……………	137	92 気比水上庄地域（推定）の遠望……………	202
65 妙国寺の鐘楼……………	147	93 樋爪庄地域（奈佐谷）の遠望……………	209
66 東楽寺銘のある妙国寺の梵鐘銘文……………	〃	94 六條御所長講堂……………	214
67 妙楽寺山出土の仏具……………	150	95 後醍醐天皇行在所に馳せ参じたと伝える小田井社文書……………	216
68 旧・大平寺（気比）境内山上より出土の経筒……………	151	96 三開山上の新田義宗追善碑……………	218
69 雷神社（佐野）……………	152	97 足利尊氏の寄進状……………	220
70 絹巻神社（気比）……………	155	98 下鶴井庄田島坪付帳……………	223
71 重浪神社（畑上）と磐座……………	156	99 山名氏の在所のあった九日市上ノ町付近……………	224
72 有庫神社（市場）……………	158	100 三開山の山容……………	227
73 大生部兵主神社（三宅）……………	〃	101 亀ヶ崎城跡……………	231
74 大生部兵主神社（奥野）……………	159	102 此隅山城趾（出石町宮内）……………	232
75 安良八幡宮（出石町安良）……………	〃	103 山名時熙像……………	233
76 日和山にある西刀神社……………	160	104 雪の真弓峠（生野町）……………	235
77 伊福八幡宮（日高町鶴岡）……………	162	105 西陣の跡（京都市）……………	237
78 頼朝・義経の書状が存在したことを伝える妙楽寺文書……………	165	106 播州書写山麓の坂本城跡……………	239
79 惣追捕使・小野時広発給の「進美寺書状」……………	166	107 山名誠豊の小田井社安塔状……………	241
80 越中次郎兵衛供養塔（気比）……………	170	108 富田城跡（島根県能義郡）……………	244
81 平家落人伝承のある伊賀谷集落……………	171	109 奈佐日本之助・塩治周防守の慰霊碑（鳥取市）……………	245
82 雅成親王黒木御所跡の碑……………	177	110 田結庄是義の供養碑……………	〃
83 水無瀬離宮跡（島本町）……………	178	111 鶴城跡（愛宕山）の遠望……………	247

- 112 田結庄右京亮の田地寄進状（八鹿町日光院）…………… 249
- 113 水生山城跡の遠望…………… ”
- 114 岡遠江守に与えた垣屋豊統感状 251
- 115 宮井城跡…………… 253
- 116 応永18年の板碑…………… 257
- 117 五輪比翼塔浮彫り板碑…………… ”
- 118 八面八地藏重制石幢の幢身…………… ”
- 119 一遍上人絵像…………… 261
- 120 出石町内町の福成寺…………… 262
- 121 光行寺（現在の姿）…………… ”
- 122 照満寺の阿弥陀絵像裏書き…………… 263
- 123 円空の祈願文と摺り仏…………… ”
- 124 祥雲寺跡の墓地…………… 265
- 125 盛重寺（現在の姿）…………… 267
- 126 大安寺・大機之碑…………… ”
- 127 養源寺（現在の本堂）…………… 269
- 128 法華宗真門流本山・本隆寺…………… ”
- 129 日真上人うぶ湯の井戸…………… ”
- 130 立正寺祖師像台座裏の書きこみ 272
- 131 空から見た現在の津居山港と気比の浜…………… 275
- 132 大浜庄新田永代売渡し証…………… 278
- 133 宮部継潤が鈴木三郎左衛門に与えた大隅玄番屋敷免許状…………… 279
- 134 中島神社の社殿…………… 280
- 135 酒垂神社の社殿…………… ”
- 136 久々比神社の社殿…………… ”
- 137 酒垂神社の棟札…………… 281
- 138 雷神社の社殿…………… 283
- 139 小田井県神社本殿の額…………… 284
- 140 羽柴筑前守秀吉の署名と花押… 291
- 141 宮部善祥房の署名と花押…………… 294
- 142 宮部善祥房墓…………… 295
- 143 明石左近が光妙寺に送った安堵状…………… 296
- 144 名護屋城跡（佐賀県鎮西町）… 303
- 145 五町地子免除の由来書…………… 308
- 146 御霊神社の社殿…………… 309
- 147 豊岡城天守台…………… 310
- 148 杉原伯耆守の住職安堵状…………… 313
- 149 常陸国小栗郷…………… 314
- 150 杉原伯耆守供養塔…………… 315
- 151 天神社（雷神社）社額安堵状… 316
- 152 来迎寺にある杉原長房・重長の墓…………… 319
- 153 杉原氏の墓地（東京・三田）… ”
- 154 杉原家相続之覚とその記事…………… 320
- 155 倉見地区の小出陣屋跡…………… 323
- 156 天正19年・伊賀谷村検地帳…………… 329
- 157 寛政5年・伊賀谷村田畑名寄帳 336
- 158 伝・徳川家康から拝領の団扇… 338
- 159 延宝6年、小二見新田開発同意書…………… 341
- 160 京極丹後守高知絵像…………… 349
- 161 京極高栄の署名と花押…………… 350
- 162 京極高住の署名と花押…………… ”
- 163 京極高有の署名と花押…………… 351
- 164 京極高品の署名と花押…………… ”
- 165 京極高厚の署名と花押…………… 352
- 166 京極高行の署名と花押…………… ”
- 167 寛政12年・豊岡藩侍帳…………… 356
- 168 延宝2年・豊岡藩士分限帳…………… ”
- 169 石束毎術拜領の知行目録…………… 362
- 170 舟木直房と妻の画像…………… 365
- 171 大石りくの離縁状…………… 371
- 172 広島・国泰寺の大石墓地…………… 372
- 173 大石りくの墓碑銘…………… ”

174	錦絵に描かれた四十七士……………	373	203	豊岡藩士の娘の関所手形……………	524
175	正福寺墓地の大石りく墓……………	374	204	巡見使通行につき心得手控……………	526
176	草屋根にも身分・雪割竹……………	377	205	但州湯島道中独案内……………	527
177	三原・畑上山論裁決書……………	378	206	天保7年の往来手形……………	528
178	『御仕置五人組帳』(旧・船谷 村)……………	383	207	京口渡しにあった天保9年造立 の大燈籠……………	〃
179	元禄10年の大谷村物成の覚……………	384	208	船往来鑑札……………	531
180	平尾家母屋……………	407	209	京口橋たもとの舟着き場……………	532
181	平尾家家訓書の冒頭……………	414	210	船津屋の造船文書……………	534
182	ほうが谷山論裁許状……………	420	211	八阪神社への奉納船額……………	537
183	武田平右衛門赦免願……………	422	212	米穀問屋仲間結成許可書……………	545
184	浦役について気比庄五ヶの浦人 らの報告文書……………	426	213	酒造鑑札(写し)……………	548
185	気比・津居山付近漁場の図……………	432	214	酒札……………	555
186	瀬戸の燈籠……………	438	215	油札……………	560
187	鮭どうで鮭を捕獲する図……………	444	216	柳行李……………	563
188	円山川・大磯の大まがりと村境 界線……………	446	217	骨柳師仲間結成の陳情書……………	569
189	月番行司名主の公用書状箱……………	452	218	高屋古窯第3火床と火格子……………	572
190	鳥井家『公私之日記』……………	453	219	高嶋屋の名が見える商人買物独 案内……………	573
191	由利九十郎『公私之日記』……………	〃	220	高嶋屋の紅盃破片……………	〃
192	狐狩の絵……………	462	221	高屋焼五升入り大徳利……………	574
193	現在の日吉神社……………	473	222	高屋焼開窯記念漢詩染付皿……………	575
194	現在の女代神社……………	477	223	高屋焼の染付大壺……………	576
195	奉納された芝居絵の絵馬……………	482	224	古出石焼の飯茶碗1……………	577
196	福井庄三郎家の調合書……………	491	225	古出石焼の飯茶碗2……………	〃
197	岸田玄朴の墓……………	494	226	出石の古窯絵図……………	578
198	岡本文吾の経歴書……………	495	227	丁髷をつけた倉谷溪司……………	579
199	座頭に下賜された鳥目八貫文の 受取状……………	502	228	溪司作と伝えられる大火鉢……………	〃
200	江戸時代の高級髪飾り類……………	514	229	旧・宝城寺盤盥……………	582
201	慶安ごろの但馬古絵図……………	522	230	紺屋株仲間うけあい書状……………	588
202	一里塚の面影を残す上佐野地区 の旧街道……………	523	231	豊岡藩札……………	589
			232	倉見札板木……………	592
			233	頼母子講銀預りの例……………	609
			234	湯島陣屋跡……………	617

235 享保14年に惣百姓惣代が提出し た領地組替え願い……………	624	265 生野義拳跡の碑……………	735
236 豊岡・京極氏の江戸上屋敷のあ った麴町付近……………	625	266 石代嘆願書の控……………	743
237 北山善次郎夫妻の墓……………	628	267 山陰道鎮撫使の宿札……………	745
238 傘連判……………	634	268 「池鯉鮒大明神御下り」の記事	747
239 徒党・強訴・逃散を禁じる高札	640	269 旧・正福寺跡……………	749
240 海徳房懐山筆「懐中錦袋」……	644	270 福成寺跡の遠望……………	750
241 田中庵（中央町・田中寺）……	649	271 文常寺の聖観音……………	〃
242 村尾彦右衛門画像……………	651	272 光妙寺の親鸞聖人絵像の裏書…	754
243 御用御勝手御借財取調帳……………	653	273 玄武岩墓碑の一例……………	758
244 年々有物メ上覚……………	664	274 惣道場の名残りを留める上佐野 の堂……………	767
245 町方の強訴を記す鳥井日記……	672	275 大石吉之進の墓……………	771
246 「豊岡騒動記」の表紙……………	674	276 興国寺造立を伝える京極高住の 筆蹟……………	772
247 現在の宵田の街並み……………	678	277 高泉筆扁額……………	774
248 出石銀札切手……………	686	278 大随墓碑……………	776
249 京極高行書状……………	691	279 楊岐庵古絵図……………	779
250 舟木家御要用日録……………	693	280 百拙の書……………	〃
251 舟木直温絵像（葛飾戴斗画）…	696	281 清蓮寺山門……………	780
252 天保元年江戸藩邸の決算書……	〃	282 キリシタン禁札……………	782
253 安永8年に飢饉対策として貯え られていた糶……………	697	283 小田井県神社境内図……………	788
254 豊岡藩御法制の写し……………	702	284 日吉神社境内図……………	790
255 天保13年儉約御触書……………	705	285 天保2年の雷神社開扉記録……	798
256 瀬戸地区の天保大火古絵図……	707	286 寛延4年の雷神社開扉目録……	799
257 瀬戸村より久美浜代官所宛の借 用証文……………	〃	287 寛文13年の名号石……………	804
258 天保年間の難渋人御救帳……………	713	288 帯雲寺入口の禁酒牌の背面……	806
259 豊岡藩鑄造の大砲の型紙……………	717	289 享保20年の六体六地藏……………	809
260 オランダ使節一行の画像……………	721	290 元禄2年建造の六地藏石碑……	810
261 二方郡対田村付近……………	722	291 指示型道標の例……………	811
262 田中河内介顕彰碑……………	728	292 板碑型道標の例……………	〃
263 平野国臣の筆蹟……………	731	293 自然石道標の例……………	813
264 生野銀山一挙始末の記事……………	732	294 文化12年5月29日入寂を示す一 空上人の墓の基壇……………	816
		295 一空上人墓碑……………	〃

296 遊行上人から藩庁あての手紙…	817	315 福井謙斎の漢詩集…	881
297 明治8年の照満寺境内図…	819	316 歌川豊春の木版浮き絵…	885
298 本如上人引船御行粧図…	820	317 葛飾戴斗の絵1…	886
299 「県社」とある中島神社標柱…	826	318 葛飾戴斗の絵2…	〃
300 西刀神社…	827	319 渡辺竹庵自画像…	887
301 元・瑞泰寺の本尊…	〃	320 渡辺竹庵の絵…	888
302 小田井県神社の社殿…	834	321 小場瀬文錦の絵馬…	889
303 梅寿院の詠歌と筆蹟…	837	322 田結荘千里の顕彰碑銘…	890
304 南条鶯橋の「文の都豆麗」…	849	323 田結荘千里画・山水図…	〃
305 福井謙斎の還暦祝いの軸…	850	324 法花寺万才…	891
306 由利茂間の辞世のある碑…	851	325 日吉神社神楽「剣の舞」…	893
307 田中河内介の短冊…	852	326 気比地区の祭文踊り…	898
308 蝶夢翁碑（中央町・来迎寺）…	855	327 「六条さん」踊り…	907
309 木卯の短冊…	856	328 養浩舎扁額…	918
310 福井髭風の「懐花庵文集」…	859	329 稽古堂扁額…	928
311 南条鶯橋の俳画「日間の浦紀 行」より…	863	330 池田草庵の書…	931
312 野牛が女代神社に贈った奉敬文	867	331 造園記事の見える観正寺過去帳	934
313 野牛らが建立した芭蕉の句碑 （木内・瑞峰寺）…	868	332 観正寺庭園…	935
314 辞世を刻んだ由利錦水の墓…	874	333 三木邸跡庭園…	937
		334 青山邸庭園…	938
		335 保田邸庭園…	939

豊岡市史 上巻

昭和56年3月31日 発行

編 集 豊岡市史編集委員会

発 行 豊 岡 市

印 刷 日本写真印刷株式会社
製 本 京都市中京区壬生花井町3
